

第 22 回

AIDS 文化フォーラム in YOKOHAMA

報告書





<目 次>

1. プログラム一覧	…P 4
2. 開会式 組織委員長あいさつ	…P 6
3. オープニング 今こそ、ともに生きる	…P 6
4. 発表プログラム	…P 8
5. 展示プログラム(1階展示会場)	…P31
6. 全体会・閉会式	…P38
7. 交流プログラム	…P39
8. イベントボランティア	…P39
9. フォーラム全体集計表	…P40
10. AIDS文化フォーラム in 横浜 22回の歩み ー開催概要と経緯ー	…P42
11. 協賛	…P44
12. 協賛企業展示	…P44
13. 2015AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	…P45
14. 「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約	…P46
15. 参加団体等名称・索引	…P47



● AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年、横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO、NPO、学生、PWA/H、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい思い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で22年目を迎えました。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシャリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育・・・私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

● 報告書作成にあたって

フォーラム3日間の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会いをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載しています。この報告書を手にとって下さる一人ひとりが、それぞれの目的にあわせ、活用して頂ければ幸いです。



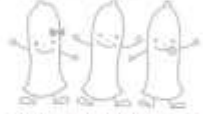
* 入場無料

テーマ: 今こそ、ともに生きる

プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

事務局は 102 会議室

初心者向け HIV/AIDS すきまミニ講座 by 山田寛子 (早稲田大学国際福祉専門学校)
010 会議室 12:30~13:00

会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30
2階ホール	10:00~12:00 (2階ホール) 開会式 オープニング 今こそ、ともに生きる	13:00~15:00 「予防」と「リスク軽減」の違いを理解していますか? (ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也) 表出した課題やトラブル(性・こころ・薬物・ネット)は知識伝達だけで予防できない。全ての課題共通するリスク軽減という視点の予防啓発を身につけましょう。 インターネット世代のコミュニケーションと性 (ネットスター株式会社) 性差別に巻き込まれてく子どもたちは特殊な事例ではない。アナログ世代とデジタル・インターネット世代のコミュニケーションの変化を解説します。  正しく教えない! 小中学校「保健」の HIV 感染経路 (北沢杏子 性活語会/アーニ出版) 小・中学校の「保健」の教科書は、HIV 感染経路を正しく教えない。「性交」は禁句。結果、新規感染者・患者数は過去最高の1,546件に! ともに生きるまちづくりとは (岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構 臨床研究・疫学研究部門 佐々木亮平) 被災地でなぜ、いま、AIDS 文化フォーラムなのか。「ノーマライゼーション」と言葉の「いらいま」まちづくりを模索する陸前高田からの報告。	15:30~17:30 若者たちが抱える困難の根拠にあるもの (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所薬物依存研究部長 松本俊彦) 薬物依存だけでなく、幅広く若者たちをむしばむ病理と向き合う精神科医。現代社会の病理をどう考え、どう対処すればいいかを考えます。 神様がくれた HIV (七山翔子) 恋愛で HIV に感染してから 10 年余。私の夢は、結婚して、子供を持って、家庭を築くこと。いま、感じていることをそのままお伝えします。 お坊さんが行う性教育授業 Ver.5 (古川潤哉) 中学校で実施している「生と性と死を考える」の模擬授業。生まれる、生きる、死ぬことを通して性を自分のことと捉える授業。 施設で認知症 HIV 患者を受け入れてもらうために (厚木市立病院泌尿器科 岩室紳也) HIV 患者さんを施設での受け入れてもらうためには「HIV の正しい知識」だけを伝えるだけではだめ。複数の患者さんを受け入れてもらえた手法を伝えます。 障がい児者への性教育を考える (YMCA 健康福祉専門学校: 学生企画) 障がい者の性は成長に不可欠な要素でありながら不慮の要因ともなる。その支援を他業している学生として、会場の皆様と共に考えたい。
8月7日・金	301 (90) HIV/AIDS が確認された初期の頃から、「ともに生きる」ということが繰り返し語られてきました。では、今の「ともに生きる」社会が実現できているのでしょうか。もし課題があるとすれば、何をどうすることが求められているのでしょうか。 302 (30) 22 回目を迎える AIDS 文化フォーラム in 横浜では「ともに生きる」という視点から当事者が生きやすい世の中になっているか、予防啓発活動は今のままでいいのか、患者の高齢化に地域は対応できているか、今こそ、「ともに生きる」を実現するために何が求められているかを展望します。 304 (60) 当事者の立場から 高久陽介 (JA/NP+) 305 (60) 学校と連携したセクシュアリティ教育を実践している立場から 星野真二 (SHIP) 306 (30) 福祉施設での受け入れと実態調査の経験から 山内哲也 (社会福祉法人武蔵野会) 医療と普及啓発の立場から (総合司会) 岩室紳也 (AIDS 文化フォーラム in 横浜)	13:00~14:00 布ナプキン手作りワークショップ&お話し会 (メイド・イン・アース) 自分を大切にしたいくなる—いま話題の布ナプキンについて、使い方やメリットなど手作りしながらお話しします。	15:30~16:30 学校での AIDS 教育及び PLANET の活動の歴史 (PLANET (HIV/AIDS と共に生きる会)) 学校での HIV/AIDS の授業をどう行っているのかを考え、HIV/AIDS とともに生きる会 (PLANET) の活動の歴史を振り返る。

ネットワーキング・TEA パーティ

8月7日(金)17:45~18:45 301 会議室


ボランティア、参加団体、一般参加者の交流のための気軽なパーティです。参加無料・予約不要

会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30
2階ホール	10:00~12:00 学校が求めているエイズ・性・こころの教育 (ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也) 「学校ではエイズ教育、性教育はやりにくい」と思っている方がまだ少なくないようです。ちょっとした工夫で、学校が、教育現場が求めている健康教育、生きる力を育むための教育を紹介します。	13:00~15:00 宗教とエイズ Part 10 (カトリック横浜教区司祭 松田清四郎 (日本基督教団牧師 平良愛香) (浄土真宗本願寺町浄誓寺僧侶 古川潤哉) (ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也) なぜ、いま、宗教なのか? 僧侶、牧師、医師が本音で宗教の意味を考えるトーク。 ともに生きる。自分らしく生きる。 (NPO 法人 akta マダム、ボンジュール・ジャンジ/ 荒木順子) (神奈川県健康危機管理課 新宿2丁目にあるコミュニティセンター akta のジャンジさんと、「ともに生きる」を感じよう! エイズとセクシュアリティに新しい視点をも!) 即興劇でともに生きるを感じよう! (劇団プレイバックーズ) プレイバックシアターという即興再現劇で何人か、ともに生きるから思い起こされるエピソードを語って頂き、再現ドラマにします。それを見ながら、ともに生きるとはどういうことかを一緒に感じましょう!	15:30~17:30 「ちづる」上映 & 赤崎正和監督のトーク 自閉症の妹のことをどう説明したらいいかわからない。だから言葉で伝えるかわりにカメラを向けることにした。「ちづる」上映委員会より  現役男優に聞く、性感染症と幸せなセックス (性感染症予防を考える AV 男優の有志たち) AV 男優が語る性感染症の予防と性について。そして気持ちよくなるだけではない、幸せになるセックスとは? 【R-18 指定】 被害エイズの運動 (被害エイズを考える山の手の会) 被害エイズ被害者の実態を知り問題解決のために学生が自ら仲間を募りました。当時を振り返り、繰り返される被害にどう活動すればよいか参加者と共に考えます。 HIV 感染者の洪久夫が横浜に帰ってきた ~感染 18 年の振り返りとこれから~ (洪久夫 & 古川潤哉) 洪久夫の人生とあなたの人生をライフラインとしてグラフに描きつつ、生活保護の引き下げで今の生活が安定しているかを語ります。
8月8日・土	301 (90) 生徒の心を聞き出し、人生が輝く3つの事例 (精華学園高等学校 町田学習センターセンター長/心理カウンセラー 椎名雄一) 生徒を不登校にさせるメカニズムから生徒の心の声を聞き出す方法、そしてその状態を活用し、人生を輝かせることができた3つの事例を紹介。 302 (30) タイの子どもたちと HIV/AIDS (横浜YMCA) タイ、バンコクYMCAと取り組んでいる児童保護プロジェクト。その取り組みについて、現地を訪れたユースが自ら感じたことを発表し、共に考えます。 303 (30) 自分を大切にすること (山田七重) フォーラムでの出会いや学びを生かして、山梨県や神奈川県で行っている中学生向けの講演活動を紹介します。ぜひご参加ください。		

会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:30～17:30
304 (60)	若者に聞いてほしい看護師と助産師のトーク (星野貴泰と吉澤美鈴) 性に関心のある人へ伝えたい看護師からの話、将来 妊娠を望む人へ伝えたい助産師からの話、聞いてくだ さい!	エイズの授業を体験しよう (HAATAS) HAATASが高校で行っているエイズ授業を紹介しま す! HAATASならではの楽しい体験授業です。	人身取引をなくそう! 漫画プロジェクト (ノット・フォー・セール・ジャパン(NFSJ)) プロの日本人漫画家が作成した、タイの人身取引防止 のための啓発コミックを使い、人身取引問題を考えま す。
8月8日・土	305 (60) 体験! デートDV予防プログラム実施者養成講座 (認定NPO法人エンパワメントかむがわ) エンパワメントかむがわのプログラムが全国に広がっ つあります。今年は高校生向けプログラム! この機会 に体験ください。	「外国人お断り」の扉をひらいて (NPO法人かむがわ外国人すまいサポートセンター) 社会や人びとの心に潜む「●●お断り」の扉を開くに は...	HIV陽性者の高齢期問題を考える (NPO法人パープル・ハーツ) 長期療養が可能になった一方、各所で顕在化しはじ めた高齢のHIV陽性者という「問題」。その課題や求め られるサポートについて考えます。
306 (30)	牧師の僕がゲイでよかったこと (平良愛香) 様々な出会いや体験を通して感じたことを、どうしてエ イズの問題と関わるようになったのかを含め語ります。	親子で考える教育プログラム 一腹話術— (JOINT HEART) 思いのまま感じたことを伝えるために話術を用いた コミュニケーション方法で分かりやすくおこないます。	予防を伝えるために必要なこと ～思春期保健指導者向け～ (北山翔子) 正しい知識があっても、他人事意識、自分だけは大丈夫 夫と思っていると予防ができません。何を、どう伝えれ ばいいのかのコツを学びませんか?

ネットワークキングパーティー

8月8日(土) 18:00～ 中華料理屋 迎珍 内容: 中華料理を食べながら交流
参加費: 成人 4,200円 未成年 3,200円 定員: 55名(参加希望者は102事務局へ)

会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:00
2階ホール	若者たちの性・デートDV (ウイメンズクリニックかみむら 上村茂司) 若者からLINEによる相談に日々答えながら、若者達 の生の声を社会に届ける、デートDV予防教育の第一 人者からのメッセージ。	特別企画 夜回り先生 ※ 事前申込制 (水谷修) 明日は、もうそこに どんなことでも、どんな人でも やり直せるんだよ。(中込はこから)	2階ホール 全体会・閉会式 次へのステップ、AIDS文化フォーラム
301 (90)	人生が輝く、マイクロストレス対処方法 (一社)日本心理療法協会 常任理事 椎名雄一 悩み、不安、ストレスは大きいものばかりが目についま すが、大きなメンタル不全の原因になっている。問題 視するほどでもないストレス=日常的なマイクロスト レスの構造とその解消方法をご紹介します。	HIV/AIDS患者の高齢化-医療現場から見た課題- (横浜市立大学附属病院 SW・医師・看護師) (神奈川県健康危機管理課) HIVと、他の病気と、周囲の人と、ともに生きる。高齢エ イズ患者が抱える困難と、HIVの正しく新しい情報を、 医療現場が伝えます。	日本のどこでも 何においても 「ともに生きる」を 考え続けるために
302 (30)	『今度はHを断ります!』と言わせた性教育 (星野貴泰) 大学時代から中学生・高校生を対象に性教育を始めて 5年がたちました。その実践報告を聞いてください!	世界がもし100人の村だったら ～HIV/AIDSバージョン(横浜YMCA ACT) エイズや性感染症についての基礎知識を「世界がもし 100人の村だったら」を題材にワークショップ形式で学 びます。学生から教育関係者までどなたでも。	AIDS文化フォーラム in 横浜 AIDS文化フォーラム in 京都 AIDS文化フォーラム in 陸前高田 AIDS文化フォーラム in 佐賀
304 (60)	HIV感染者の分娩と未受診妊婦の問題 (認定NPO法人AIDSネットワーク横浜) 大学病院産科でHIV感染者の分娩対応の経験がある 水主川純先生が、その実際と、救急での飛び込み分 娩や未受診妊婦の問題を語ります。	性感染症に注意! (認定NPO法人AIDSネットワーク横浜) 新宿しらかば診療所で活躍の井戸田先生が、性感染 症の現実を語ります。セクシャルマイノリティの方の診 療や、「男子のためのSTDハンドブック」で有名です。	AIDS文化フォーラム in 佐賀 の次は?
305 (60)	心に響くピアエデュケーション (遠見才希子) 大学時代から300校以上の中学・高校で講演を行う産 婦人科医えんみちゃん。知識だけでなく「生の声」を聞 きます。	ライフプランから考える性の健康教育 (NPO法人ビルゴン) 将来設計のために必要な性知識を学び、パートナー シップについて考える大学生・若手社会人ボランティア による性教育×キャリア教育講座。	の次は? 
306 (30)	10:30～11:00 おネエと語ろう! 性感染症と予防のあるある (公益社団法人東京都臨床検査技師会) 病院等に勤める臨床検査技師と首都圏在住の「お ねえ」が、性感染症の検査や予防、「おねえ」のあ るあるなどについて話し合います。	13:00～14:00 アフリカのエイズ ～青年海外協力隊員からの報告～ (横浜AIDS市民活動センター) アフリカなど世界で活動してきた協力隊員が、なか なか得難くない現地の実際の様子を報告。	

【1階展示場出展団体】

- ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク ◇神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課
- ◇神奈川県ユニセフ協会 ◇認定NPO法人エンパワメントかむがわ ◇メイド・イン・アース ◇横浜AIDS市民活動センター ◇横浜YMCA
- ◇ATAC&ABCD&SKGH in NARA ◇NPO法人HIVと人権・情報センター ◇NPO法人ビルゴン ◇PLANET(とHIV/AIDSと共に生きる会)

◇手作りのワークショップコーナー「マイレッドリボンをつくらう!」



【寄 付】ヴィーブヘルスケア株式会社、神奈川県化粧品工業協会、神奈川県製菓協会、
ジェックス株式会社、島居薬品工業株式会社、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区、MSD株式会社
【助成金】公益財団法人エイズ予防財団(平成27年度エイズ予防推進助成事業)→広がるネットワークを評価していただきました。
【物品協賛】株式会社伊藤園、株式会社ジャパンビレッジセントラル、東京キリンビレッジサービス株式会社

開会式・組織委員長あいさつ

今年もAIDS文化フォーラム in 横浜を開催できますことを心より感謝申し上げます。

今年には戦後70年という節目の年です。8月6日は広島に原爆が投下された日、また最終日の8月9日は長崎に原爆が投下された日です。そのような節目の年に平和の中でこのAIDS文化フォーラムを開催できることを感謝しております。

先日、世界的なバレリーナの森下洋子さんは、「私にとってバレエや芸術、文化は平和運動です。戦時体制で真っ先に犠牲になるのは芸術や文化活動であり、芸術や文化を表現できることは平和の指標です。バレリーナは芸術を通して平和、声なき声、人間はどう生きるかということ表現しているのです」とおっしゃっていました。AIDS文化フォーラムでは、様々なマイノリティーの方々の声を聴き、ともに生きる社会を目指し「文化」をつくらうと22年間歩んできました。AIDS文化フォーラムが続くことは平和が続いているということであると思います。そういった意味においても、AIDS文化フォーラムを戦後70年の節目に開催できることをうれしく思います。

1994年の第1回目のAIDS文化フォーラムの年は、横浜で国際エイズ会議が開かれました。参加費が高額なため、医師などの専門家だけが参加し、一般の方は参加できないものでした。そのような状況の中で、当事者や支援する人々を中心に「ともに生きる」場を作りたいと考えました。専門家の声や知識を市民の中に広げ、市民が参加することができる文化をつくりたいと考えAIDS文化フォーラムが始まりました。それ以来、市民が医療や福祉などの分野のAIDSに関わる人々と手を携えて歩んできました。AIDS文化フォーラムは草の根運動からスタートしているため、講座や展示などの参加団体の皆様は手弁当で出展していただき、市民の方々が来場して下さり、成り立っています。AIDS文化フォーラムの開催自体が「ともに生きる」ということを目指してきたものであり、多くのボランティアに支えられ、市民運動として歩んできました。AIDSが発見された当時、感染者が一番孤立していました。しかし、その方々と連帯し、ともに生きる文化自体がAIDS文化フォーラムの歩みであります。今年も皆さんに関わっていただき、その文化を育てる場としていきたいと思っております。AIDS文化フォーラムで継続して発信してきたことは「他人事を自分事に変える変革の場」だと思っています。自分の価値を変えられる体験の場になることを願っています。 組織委員長 田口努



オープニング

今こそ、ともに生きる

当事者の立場から：高久陽介 (NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス[JaNP+])
学校と連携したセクシュアリティ教育を実践している立場から：星野慎二 (NPO法人SHIP)
福祉施設での受け入れと実態調査の経験から：山内哲也 (社会福祉法人武蔵野会)
医療と普及啓発の立場から：岩室紳也 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員：司会)

内容:今こそ、ともに生きるために何が求められているのか。ご登壇いただいた方々は、HIV感染症がコントロールできるようになった2000年頃にHIV感染が判明したり、自分事としてとらえられるようになったり、職業上のこととして意識するようになったりした方々。岩室も2000年頃には予防や治療には関心があっても、福祉という視点は全くなかった。

高久陽介:JaNP+代表。セクシュアリティはゲイ。HIVを他人事と思っていた2000年に保健所の検査でHIV感染が判明。最初は隠しておこうと思ったが、ゲイの知人にカミングアウトしたり、新宿2丁目等でコンドームを配布したりする内に、「HIVに感染すると不幸になりますよ」といった視点での啓発をしていた自分に気づいた。今でも医療、歯科診療、福祉の領域で受け入れられない現状があるが、今求められているのが「ともに生きる」病気になること。「怖い病気」と思ったら検査に行かないと思ひ、陽性者の視点に立った啓発にシフトした。HIV陽性者が身近な人に、必要な時に自分自身の感染の事実を伝えられる環境整備のため、当事者がスピーカーとして活動している。

星野慎二:SHIP代表。セクシュアリティはゲイ。1990年代半ばに友人がAIDSで亡くなるもその家族に「ゲイだからAIDSになった」という思いから告別式で「ゲイは来るな」と門前払いされる。当時からAIDS文化フォーラム in 横浜のことは知っていたけど関心はなかった。2000年に新木場で「ゲイは被害届を出さない」という風評の結果、「ホモ狩り」でゲイの人が殺害されたこと、ハッテン場のインターネットサイトを作っていたことを理由に自分もバッシングされたことからHIV/AIDSに関わるようになった。ハッテン場が問題ではなく、ハッテン場でコンドームが使われないことが問題だからコンドーム配布を開始。その後、神奈川県との協働でLGBT支援のコミュニティスペースを創った。

インターネットの影響で出会いの場としてのゲイバーの吸引力が低下したのを受け、2007年頃から学校現場へのアウトリーチを試みた。しかし、教育委員会との連携は上手く行かず、2010年に人権担当課にセクシュアルマイノリティの人権という視点でアプローチしたところ、教育委員会との協働が可能となった。ネット等で知り合ったセクシャルマイノリティは、年齢的な力関係から性交渉に及ぶことが少なくない。学校向けに作成したポスターの言葉、「好き」にはいろんなカタチがあります。相手が異性でも同性でも、愛に変わりはありません」は自己肯定感を高めるねらいがある。

山内哲也:2000年頃にHIV/AIDSの方の福祉施設のニーズが生まれたことをきっかけにHIV/AIDSに関わる。法人として受け入れを整備する必要性に迫られたが、そもそもHIVに関心がない、専門的な医療機関での医療、治療が必要で、福祉が関われる疾患ではないという意識だった。一方で当初から受け入れてくれる施設は少数ながらあった。人を尊重する、困った人を見捨てないといった組織の理念があるところが受け入れていた。福祉は「生活のしづらさや困難さ」を見て、「特別視しない」、「人権」という視点に立っている。受け入れの阻害要因は、理念の差というより、感染症という悪いイメージが受け入れにある。福祉の原点は「いのち」、「生活」を守り、「幸せ」をつくり出すこと。当事者と接したり、当事者の声を聞いたりするなかで、共感が得られるような研修を大切にしている。

来場者感想:

- いろいろな視点から“ともに生きる”ことについて気づきを与えていただきました。オープニングにふさわしいメッセージが一杯あったと思います。(京都府 50代 その他)
- 中学の教師をしている孫に知らせ、明日からのプログラムに参加するよう伝えます。(神奈川県 70代 その他)
- 皆さんがそれぞれの場で、地道に活動されていて力をいただきました。

私も自分のフィールドで力を尽くしていきます。(神奈川県 40代 教育関係)

- HIV、同性愛の問題に限らず、何でも置き換えられることだと思いました。人が人を思い合える、偏見を持たずに、価値観を押し付けるのではなく、人を受け入れたい、自分も人も大切にしたいと思わせる教育や啓発が必要と感じた→それには何ができるだろう？(東京都 20代 その他)
- ともに生きるため、もっと学校でセクシャルマイノリティやHIVについて教えていきたいと思います。そのためにも職員が理解して教えられるよう取り組んでいきたいと思いました。(三重県 30代 教育関係)
- 星野さんが上映したDVDの中で養護教諭に相談してSHIPにつながったという場面で、誰かに相談できて良かったと安心する思いと、自分も様々な引き出しを持ち、この人なら相談できると信頼される存在でありたいと思いました。(神奈川県 30代 教育関係)
- 福祉施設で働いています。受け入れをしています、その後の居心地はどうなのか少し気になっています。これからも頑張りたいと思います。(長野県 30代 保健医療福祉関係)
- 高久さんのつなげていく活動、すごいと思います。頑張ってください(神奈川県 40代 保健医療福祉関係)



2015年8月8日神奈川新聞

エイズへの偏見 考えて
神奈川区で「文化フォーラム」
あすまで 60超える講座・展示



幅広い視点からエイズについて考える「AIDS文化フォーラム」が7日、横浜市神奈川区のなかがわ県民センターで始まった。9日まで関係団体が60を超える講座や展示を実施する。初日はオープニング企画として当事者らによるトークセッションが行われ、エイズに向けられる偏見や課題について考えた。エイズウイルス(HIV)陽性者をつなぐNPO法人「ジャンププラス」代表の高久陽介さん(39)が当事者の立場から登壇し、医師、性的少数者の支援者、社会福祉法人職員もそれぞれの経験から「ともに生きる社会」の実現に向けて語り合った。ゲイである高久さんは2001年に検査で陽性が発覚。「初めは墓場に持っていく」と決めていたが、親しい友人に打ち明けながら現実を受け入れていく。

自身の中にもエイズへの偏見があることに気づいたのは、東京・新宿2丁目目コンドームを配る予防啓発ボランティアを始めたとき。「特別で深刻な病気だ」という思いがあった。でも、感染後も愛をわらず仕事や恋愛をして楽しく生活している自分がある。本当は身近で普通の病気だということを知ってもらいたい」と話す。「人にうつる恐ろしい病気」といったイメージが拭えず、HIV感染者の受け入れがなかなか進まない福祉施設の現状が報告された。

厚生労働省エイズ動向委員会によると、14年、新たに報告されたHIV感染者は1091人、発症したエイズ患者数は455人だった。

フォーラムは午前10時〜午後5時半(最終日は午後4時まで)。性や文化、医療、教育などさまざまな分野の講座や映画の上映が行

われる。入場無料。問い合わせは、フォーラム事務局 045(662)3721。(服部 エレン)

発表プログラム

「予防」と「リスク軽減」の違いを理解していますか？

主催：ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ） 岩室紳也

HIV/AIDSの診療を行う傍ら、年間100校程度でHIV/AIDS予防教育を直接生徒さん向けに行っています。

内容：日本人は何か課題を突き付けられると、その課題自体を予防しようとします。エイズであればエイズ予防策を、自殺であれば自殺予防策を考え、それらの原因を考えます。自殺の3大要因が「うつ病」、「生活苦」、「家族の不和」と指摘されると、それらを早期に発見し、適切な相談機関につなごうとします。しかし、同じ状況にあっても、実は自殺しない人たちが数多くいます。その人たちが自殺しないのは、社会に蔓延しているリスク（関係性や居場所の喪失等）を克服できているからです。これからの健康づくり、HIV/AIDS予防を推し進めるには、「リスク軽減」という考え方が重要であることを強調させていただきました。

来場者感想：

- うつ病やいじめ問題、人間関係の問題を今まで軽く考えていたと思いました。どんな問題にも必ず居場所づくりが大事なのだと知り、これから人と関わっていくとき、その人の居場所になれるような努力をしようと感じました。（神奈川県 10代 学生）
- 知識だけではなく、体験として知っていくこと、地域のネットワークづくり、居場所づくりについてとても考えさせられました。（神奈川県 40代 保健医療福祉関係）
- 「私はこう思っているよ！こうしたい！」という思いを発信することが大事だと強く思いました。帰ったら今日感じた事を話して仲間を増やしていこうと思います。（沖縄県 30代 教育関係）
- 話の中の「心が病んでいる」のところで、自分もこれに当てはまっていたなと思いました。ただ、今はちゃんと働くこともできて、人と付き合いもできて、どこが自分を変えたポイントだったかと思えば、やっぱり家族がつくった居場所だったと思いました。この子を産んでそれに気づきました。ありがとうございます。居場所の話は誰かに話していこうと思います。（山梨県 20代 保健医療福祉関係）
- 「人は人との間でしか生きられない」というメッセージが強く心に残りました。（神奈川県 30代 教育関係）



連絡先：岩室紳也 ヘルスプロモーション推進センター

紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>（メール、講演申し込みはHPからお願いします）

正しく教えたい！小中学校「保健」のHIV感染経路

主催：性を語る会（代表 北沢杏子）

1987年設立。国内外に会員600名。シンポジウム、講演等実施。

内容：私は事前に、世田谷区立図書館に日参して、出版各社発行の小学校『保健』教科書を調べた。エイズの頁を開くと、HIVの感染経路は「感染した人の血液が傷口などから入って感染する」となっており、教師用指導書を見ると、性交は禁句。中学校の『保健』でも、性的接触で感染とだけ表記。生徒の中には、担当の養護教諭を困らせようと、「性的接触とは、どこまでを指すのか？」と、みんなでニヤニヤ質問して、回答を迫るとか。更に高校の教科書を調べると、やっと性交が出てくる。なぜ「性交」は禁句なのか？

私の分科会に参加した方々の感想にも「“性交”を授業で使ってはいけないということを知って驚いた」「自分の健康を守るために、正しい性教育が必要」とあった。講座の終りに、私が中学生・高校生対象に行った授業(DVD)の中の「コンドームの正しいつけ方10ヵ条」の場面を映写。参加者の方々に二人一組になって頂き、教材(木製のペニス、コンドーム他)を配布して実習を行った。感想に、「男の子の性教育についてのDVD、コンドームのつけ方など、大変勉強になった」「今後の教育に活かそうと思う」など、好評だった。また来年を楽しみにしています！



連絡先：性を語る会

〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6 アーニ出版内

TEL:03-3708-7326 E-mail:info@ahni.co.jp URL:<http://www.ahni.co.jp/kitazawa/index.htm>

ともに生きるまちづくりとは

AIDS文化フォーラムin陸前高田が目指すもの～誰もが住みやすいまちに
主催：佐々木亮平（岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構）

東日本大震災後、岩手県内の被災した三陸沿岸地域を中心に医療や健康づくりの復興支援を行っています。

内容：AIDSを切り口に「人と人がつながる」ことを考える事業を平成17年度から陸前高田市においてスタートさせ、地元青年会議所と保健所、大学生・高校生が中心となって平成22年度まで6年連続で開催していました。平成23年3月11日に起こった東日本大震災により、陸前高田市は中心市街地の約90%が甚大な被害を受け、事業も中断していましたが、平成25年に3年ぶりに復活することができました。AIDS文化フォーラムin「横浜」、「京都」に続く3ヶ所目という形での復活となり、現地の方言で「はまってけらいん（参加しましょう）、かだってけらいん（語りましょう）」をテーマに、改めてAIDSも被災地の復興も、「はまかだ」することの大切さが確認され、つながりの輪が広がりました。平成27年には戸羽太 陸前高田市長が被災直後から話し続けていた「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」のアクションプランが策定され、被災後の復興を推し進めていくにあたって、「ともに生きるまちづくり」について具体的に考えていくこととなりました。AIDSと健康づくりや、地域づくりは直接関係ないように思われがちですが、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」、そして「はまってけらいん、かだってけらいん運動」に取り組んでいる陸前高田市だからこそできることを、これからも一つずつ進めていきたいと思えます。



来場者感想：

- コーディネートの大切さ、人をつなぐ人の必要性を認識しました。
- 陸前高田での再開にこぎつけた現地の方々の熱意に敬意。
- 保健師という立場から地域保健という枠を越えての活動を当市の保健師さんにも見習ってほしい。
- 保健センターは母子保健と高齢者、予防医療と捉えている市の姿勢、命の教育は助産師という学校の固さにも一人で戦うには組織は強大、それこそ誰かとつながらなければ・・・。

連絡先：佐々木亮平 岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構 臨床研究・疫学研究部門 特命助教
 〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1 TEL:019-651-5110(内線5464)

E-mail:ryou-hei-1115@topaz.ocn.ne.jp

URL:「災害時の公衆衛生 陸前高田市のいま」:<http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakata.html>

布ナプキン手作りワークショップ&お話し会

主催：メイド・イン・アース

生地、縫製糸、ネームタグまですべて100%オーガニックコットンにこだわった製品の製造・販売をしています。

内容：「自分を大切にしたい」といふ話題の布ナプキン。生理が楽しみになる、生理がつかなくなる……などなど、女性の身体と心に嬉しい変化をもたらす布ナプキンは、自然派の女性から広がり、徐々に生理期間のパートナーとして女性たちの間に浸透してきました。とはいえ、「どうやって使うの?」「どんな風がいいの?」「モレない?」気にはなっているけど、使い始める前は分からないことや不安なこともたくさん……。そこで、今回のワークショップでは、布ナプキンを楽しく手作りしながら、オーガニックコットンの魅力や使い方・洗い方などをお話しました。今回作ったのは、オーガニックコットンのハンカチを使って、3か所のみ縫いするだけでもカンタンにできあがる布ナプキン。ふわふわの手ざわりに癒されながら、世界にひとつだけの布ナプキンが完成しました。



来場者感想：

- とても簡単に作る事ができたので、楽しかったです。子ども達とも作ってみたいです。(神奈川県 30代 教育関係)
- 初めて布ナプキンの存在を知りました。手作りで自分専用のもを作る間、『自分の体をいたわる』ということを感じて考える良い機会となりました。とても楽しい時間をありがとうございました。(神奈川県 30代 教育関係)

連絡先：メイド・イン・アース 〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-19-30

TEL:03-5701-6633 FAX:03-5701-6635 URL:<http://www.made-in-earth.co.jp/about/nunonapkin>

若者たちが抱える困難の根底にあるもの

主催：松本俊彦

(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部 診断治療開発研究室長)

内容：中高生の1割に自傷経験がある。そのうちの6割には10回以上の自傷経験がある。500人の学校だと50人に1回、うち30人には10回以上の自傷経験があることになる。しかし、教員が気づくのは1/30。自傷する若者の特徴は、「飲酒・喫煙・薬物の誘いを受けたことが多い」「自尊心が低い」「摂食障害の傾向がある」「性体験者が多く、複数のパートナーを持つ」「避妊なしの性行為をする」「大人は信用できないと思っている」「自殺系サイトへのアクセス経験者が多い」等。将来、薬物依存やアル中になる可能性も高い。彼らは「つらい気持ちを楽にする」ために自傷する。依存症の中心には苦痛がある。生きるためだった自傷のはずなのに死が近づいてしまう。「見える傷」の背後にある「見えない傷」を考える。彼らに『ダメ、ぜったい』はダメ。つらいときに信頼できる大人に援助を求めることができるかどうかが大切。



来場者感想：

- 今まで、リストカットをしていた生徒に対してさらに傷つけてしまう対応をしていなかったか？ と振り返ると不安な部分もありますが、ありのままの姿を受けとめて、一緒に問題に向き合うという姿勢をもてるようにしたいと思います。(沖縄県 30代 教育関係)
- 自傷という見える傷の後ろにある見えない傷に寄り添うことの大切さを感じました。(神奈川県・50代・NPO/NGO)
- 直接AIDSの内容ではありませんが、自己肯定感や「ともに生きる」ということを考えさせられるよい内容でした。(神奈川県 50代 教育関係)
- “自傷には「鎮痛効果」がある”ということに驚いたが、つらくて「死にたい」という気持ちから逃げるという気持ちは理解できた。(神奈川県 40代 学生)

連絡先：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1
TEL:042-341-2711 FAX:042-346-1944



神様がくれたHIV

主催：北山翔子

内容：アフリカでボランティアをしていた時に受けた抗体検査でHIVが陽性と判明。その後、どのように現実を受け止め、生きてきたのかということをお話しました。話を聞かれた方が、そのままの感性で何かを感じ、これから生きていく上で何らかのヒントになれば幸いです。

来場者感想：

- 北山さんのお話を聞いて、逆に元気をもらいました。すごく辛いこともあったとおっしゃっていたし、薬を飲まないで死んでしまおうと思ったとおっしゃっていたのに、でもHIVになってよかったと話されているのを聞いて、自分も同じように頑張りたいと思えました。とても貴重なお話をありがとうございました。(東京都 20代 学生)
- 本を読んで、そしてお話を聞いて、HIVに感染していても、感染していなくても自分の命を一生懸命生きることに変わりないし、自分の中に少なからず偏見の目があったということに気づきました。(神奈川県 20代 教育関係)
- どんな人でも高い壁を乗り越えられる力を持っているという言葉にとっても感動しました。自分の気持ちに正直に生きることの素晴らしさを感じ、感動しました。ありがとうございました。(神奈川県 50代 教育関係)
- 「神様は乗り越えられない壁は与えない」という言葉を聞き、自分の今まで辛かったことを思い返してみました。自分のことを振り返る時間にもなりました。ありがとうございました。(神奈川県 20代 学生)



連絡先：神也's HP: <http://iwamuro.jp/> (北山翔子さんの講演申し込みはHPからお願いします)

お坊さんが行う性教育授業 ver.5

～中学3年生向け「生と性と死を考える授業」～

主催：古川潤哉 浄土真宗本願寺派僧侶（佐賀県伊万里市 浄誓寺）

内容：佐賀県のDV総合対策センターの中学校向け「DV予防教育」プログラムの一環、「エイズを通していのちを考える」を担当し、性教育をいのちの話、自分の話と捉える授業を実施。今年も、来場者に「現代の」中学3年生になりきってもらい（実はこれが難しい）、模擬授業で、「生と性と死」を一緒に考えた。



来場者感想：

- 質量保存の法則で死を考えるのが新鮮。（神奈川県 20代 医療福祉関係）
- かなりの大ヒット企画。自分の弱点を隠さない、本音の詰まったアプローチに沢山の学び。（山梨県 40代 教育関係）
- 教える立場ながら、性の話が苦手。フランクに応えるようにしているものの、知識の押しつけになっていた。今日、話の糸口が見つかった気がする。（神奈川県 20代 教育関係）
- デスエデュケーションに興味あり 生死一如が面白かった。（東京都 20代 医療福祉関係）
- お坊さんからの性と生と死の教育、と聞いて「いのちの大切さ」を話すのだろうと思っていました。でも、思っているよりもずっと深く、生きる？死ぬ？思春期？色々考えさせられました。最後に「子どもの逃げ道を作りたい」という言葉に、とても共感しました。こういう情報が、子どもたちの手にもっと届くといいなと思います。（栃木県 20代 保健医療福祉関係）

連絡先：浄土真宗本願寺派 浄誓寺（佐賀伊万里市） 古川潤哉

URL: <http://furujun.info> E-mail: junya@joseiji.org

施設で認知症HIV患者を受け入れてもらうために

主催：岩室紳也（厚木市立病院泌尿器科）

HIV/AIDSの診療だけではなく、患者さんが在宅や施設で生活していくための環境整備に力を入れています。

内容：HIVに感染している人も加齢と共に認知症になることがあります。自宅で生活ができる状況であれば問題はないのですが、徘徊したり、服薬がきちんとできなくなったりした時は施設に入所したり、在宅での様々な支援が必要になります。しかし、HIVに感染しているというだけで、やみくもに拒否されてしまうことが少なくありません。当院ではこれまでHIVに感染している方の在宅療養、福祉サービスの利用、施設入所（短期、長期）を可能としてきましたが、そのノウハウは実は単純なことでした。①施設やサービス提供者とface to face、顔が見える関係性をout reach、積極的に出向いて構築すること。②HIVだけではなく、ノロウイルス、インフルエンザ、結核等の感染症を含めた、感染症の啓発をしつつ、お願いする患者さんが服薬でHIV量も検出限界以下になっていることを丁寧に伝える。③休日夜間を含め、緊急時に連絡がつくようにする。これらのことで、患者さんとご家族が快適に地域で生活ができる環境を整備することが出来ています。

ノロウイルス対策で必須

牡蠣の「生食用」と「加熱用」の違いは？

地域で基準が異なることを知っていますか？

来場者感想：

- 知っているようで知らないことに気づき、話を聞くことにより、すんなり受け入れられる手法、参考になりました。（神奈川県 40代 保健医療福祉関係）
- 手を離さない、常に関わり続けることが必要というところが響きました。認知症HIV患者の方が増えていく中で、その地域支援の経験の集積が重要だと思います。（神奈川県 40代 保健医療福祉関係）

連絡先：岩室紳也 〒243-8588 厚木市水引1-16-36 厚木市立病院泌尿器科（火曜日）

TEL 046-221-1570 FAX 046-222-7836 紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>

障がい児者への性教育を考える

主催：YMCA健康福祉専門学校

座学と体験学習とを組み合わせた「当事者目線」での支援ができる専門職を養成している。

内容:私たちは性行動におけるマナーを人間関係の中で学習していく。これらはほとんどが暗黙のサインでのやり取りであることから、障がい児者がそのスキルを習得していくことは困難であり、障がい児者向けの性教育が望まれている。そこで、障がい児者が誤解してしまうような、何気ない異性間のやりとりや、性的なふざけあいをテーマに、日常的によくみられるが、お互いに注意をしない性的な行動を検証した。さらに、障がい児者の不適切な場面での性的な言動を学生の体験から抽出し、障がい児者が理解できるように注意したり、代替え行動を指示してみることをロールプレイしてみた。最後に、障がい児者に投げかけられたとき、どう返答したらよいか困ってしまう場面を会場の方と共に考える時を持った。

会場からは、体験の機会が少ない障がい児者へは特にその機会を大切に丁寧にかかわることの重要性などのご意見をいただいた。また、実際に注意するセリフを考えると、なかなか会話が作れず、さらに何が正解かも明確に示すことができない問題にも直面した。共に考えることで障がい児者が私たちと同じように性への関心と性行動を適応的に表現していくことができるように、また、一人でも多くの方がこのことに関心を持っていただけるとありがたい。

来場者感想：

- 私自身が障がい児者への性教育をさせていただく機会があり、何かヒントをいただければと思いました。その場面、その場面だけでなく、その人の生活や普段を含めて、施設の方々と事前に考えつづけることが大事ですね。人は経験にしか学べないので、いわば経験不足のみなさんに少しだけでよいので、丁寧に前もってかかわりたいと私も思いました。(岩手県 30代 教育関係)



連絡先：YMCA健康福祉専門学校

〒243-0018 厚木市中町4-16-19

TEL:046-223-1441 FAX:046-223-2101

E-mail:okuta_noriko@yokohamaymca.org (奥田訓子)

URL:http://www.yokohamaymca.ac.jp/health/

学校でのAIDS教育及びPLANETの活動の歴史

主催：PLANET (HIVとともに生きる会)

内容:今では風化してしまったと言える“薬害エイズ”の歴史を振りかえる事を含めて、現在のHIV/AIDSからみえてくるものを捉えていけることができればと思う。薬害エイズの問題は永年にわたる苦渋の裁判でのたたかひのなかで和解となった。HIV/AIDSの30年を越える日本の状況下、若者にとって学校教育として十分な教育内容や社会的によりよい福祉政策はまだまだとられていない状況がある。感染の可能性が横たわっている中、情報や対策を考えられないまま感染してしまう若者の状況に、学校教育の中でどのように教育内容を補償してゆくのかを参加者の取り組みの交流の中で共に考えることができた。

来場者感想：

- 今日はありがとうございました。現場での教育に参考にさせていただきます。楽しくお話ができ、とても感謝しています。(岐阜県 50代 教育関係)

連絡先：小田切孝子 〒612-8066 京都市伏見区桃山町伊賀6-5

TEL/FAX:075-622-6889 o-takasan@zpost.plala.or.jp

http://www.7b.biglobe.ne.jp/~hunky/



学校が求めているエイズ・性・こころの教育

主催：ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ） 岩室紳也

HIV/AIDSの診療を行う傍ら、年間100校程度でHIV/AIDS予防教育を直接生徒さん向けに行っています。

内容：HIV/AIDSが教科書にきちんと書かれるようになったいま、生徒のみならず学校の先生たちのエイズに関する関心が低くなっている。一方でHIV/AIDSの報告数が横ばいになったとはいえ、医療現場から見ると予防だけではなく、ともに生きる社会づくりに向けた啓発活動の継続が不可欠である。医療現場の危機感を踏まえ、かつ学校の求めに応じた啓発活動を行うためにも、HIV/AIDSの情報を伝えるだけではなく、コミュニケーション能力、自己肯定感を高め、一人ひとりが生きる力を身に付けられる方向性でエイズ教育、性教育、そしてこころの教育が求められている。

来場者感想：

- 自分事と他人事。口先ばかりで他人事だったことって多々あると言われて初めて気づきました。結果と原因とを結びつけるだけではなく、どうしてその結果に至ったかを想像する必要性を感じました。（神奈川県 40代 その他）
- 子どもたちを見て、「想像力が育っていない」ということに納得しました。コミュニケーション能力を育てるために自分の経験を踏まえて自分ができることを考えていきたいと思えます。（神奈川県 40代 教育関係）
- “経験していないことは他人事”という言葉にドキッとしました。自分がした教育を振り返っても思うことがあります。全てのことを経験することは不可能なので、経験した人の話を聞くなど、コミュニケーションを活かして自分の中に落として伝えていきたいです。（神奈川県 20代 保健医療福祉関係）

聞きたいこと 聞いて残ること	聞きたくないこと 聞いても残らないこと
事例、当事者の声や思い、 経験談、感動体験、失敗談	統計、あるべき論、 正解、スローガン
関係性に基づく話	トップダウンの押しつけ
自分事意識	他人事意識
悪者がいない話	悪者がいる話

連絡先：岩室紳也 ヘルスプロモーション推進センター

紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>（メール、講演申し込みはHPからお願いします）

生徒の心を聞き出し、人生が輝く3つの事例

主催：精華学園高等学校町田学習センター センター長・心理カウンセラー 椎名雄一

内容：コミュニケーションが難しい生徒、メンタル不全者とどうやって会話をするかをパートに分けて学習しました。うなずき一つでもタイミングが0.5秒ずれるだけで意味が変化し、話のどこでうなずくかで話の流れが変わってしまいます。コミュニケーションの基本的な要素「うなずき」「あいづち」「伝え返し」だけでもかなり柔軟なコミュニケーションができることを実技で学習しました。

このスキルは学校では欠かせないスキルである反面、論理的に教えられる人がいないので、これを多くの学校の研修に取り入れると良いとアドバイスをいただきました。できる先生はできるけれど、できない先生はできない暗黙知を共有し、多くの人ができるようになるためのスキルとして活用・発展していくと良いと感じました。

来場者感想：

- 普段、いかに相手を見ずに会話をしているかということに気づくことができました。言語化できない気持ちをたくさん持っている子どもや相手の心に気づけるように、今日、お話しいただいたことを活かしたいです。
- 人の思いは言葉以外にもかなりの情報があり、それを伝えようとしているんだと思いました。相手をよく見て、目や身振りをもっと見て、いろいろ気づけるようになりたいです。
- 自分の生活の中でとても考えさせられるお話でした。視点、自分自身の考え方が変われば、見えるもの、感じるものがかなり変わりそうです。

連絡先：精華学園高等学校町田学習センター

URL: <http://seika-machida.jp>



予防を伝えるために大切なこと～思春期保健指導者向け～

主催：北山翔子

内容：「神様がくれたHIV」の著者、北山翔子が思春期世代の子たちの心に響く話について話しました。伝えたいことがうまく伝わらないというジレンマに応えるべく、この講座を持つことにしました。

どんどんこちらから質問していくので、緊張感もあったと思いますが、終わったあとは、会場の参加者の連帯感のようなものが生まれたようです。人とつながることの大切さも感じていただけたのではないのでしょうか。

来場者感想：

- 自己紹介でクラスが一体感を持ちました。皆がそれぞれの立場で熱い気持ちを持って参加しているのがよくわかりました。これからの自分の生き方の励みにもなりました。ありがとうございました。(神奈川県 40代 保健医療福祉関係)
- 受け身で参加していたため、発信することがドキドキでした。参加者の方のいろいろな話が聞けて今後のヒントになりました。(群馬県 20代 保健医療福祉関係)
- 自分のことですが、紹介するのは難しいと思いました。たとえ話しがうまくなくても、一生懸命さや、やる気は伝わるものだと感じました。(神奈川県 30代 保健医療福祉関係)
- 北山先生のお話を伺って、日々の学校生活の胸のモヤモヤがちょっとだけ晴れた気分です。多くの人の話を聞く事は自分のエネルギーになり、意欲に変わりました。(神奈川県 40代 教育関係)

連絡先：紳也's HP: <http://iwamuro.jp/> (北山翔子さんの講演申し込みはHPからお願いします)

「ちづる」上映 & 赤崎正和監督のトーク

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：妹のことをどう説明したらいいかわからない。だから言葉で伝えるかわりにカメラを向けることにした。立教大学現代心理学部映像身体学科の赤崎正和が監督したドキュメンタリー「ちづる」。自身の卒業制作として企画されたこの映画は、重度の知的障害と自閉症をもった赤崎の妹・千鶴とその母を1年に渡り撮り続けた、みずみずしくも優しい家族の物語である。最も身近な存在でありながら正面から向き合えなかった妹にカメラで対話した監督は、映画を撮り終える頃、家族との新しい関係を築きあげている自分に気づく。作者の精神的な成長がいみじくも映像に刻印されてしまった稀有なドキュメンタリーの誕生。“若さ”が成し遂げた映画の奇跡がここにある。(HPより)



当日についての監督ブログ：<http://blog.chizuru-movie.com/?month=201508>

来場者感想：

- 大変良かったです。多様性という言葉が新聞に取り上げられることが増えてきましたが、この多様性こそが未来をひらく道ではないかと強く感じました。皆生きています。(神奈川県 50代 保健医療福祉関係)
- トークで映画作品を何倍も理解させていただきました。カミングアウトのこと、自身の内なる偏見のこと、などなど。ありがとうございました(神奈川県 60代 教育関係)
- 「ともに生きる」というテーマにぴったりのものすごくよかったです。(神奈川県 40代 教育関係)
- 障害を持つ人を兄弟や家族に持つ人はやはり隠すことの方が多く、実際にそういう家族を多く見てきましたが、妹と直面している姿を見てほほえましく思いました。生きづらい自閉症の方の理解を広げるためにも、とてもよい映画だと思います。今日のようにトークがあるとわかりやすいですね。(神奈川県 50代 教育関係)
- 家族のありのままの姿が伝わりました。障害があることは大変ではあるけれど、決して特別なことではないのだと感じました。また「兄妹」からの視点のお話をお聞きできたのがよかったです。(神奈川県 30代 教育関係)
- 描き方がさわやかで、正直で、いろんなことを感じました。最後、号泣してしまいました。(東京都 30代 その他)

連絡先：URL:<http://chizuru-movie.com/>

インターネット世代のコミュニケーションと性

主催：ネットスター株式会社 宮崎豊久

フィルタリングサービスを提供するネットスター株式会社でインターネット利用のトラブルを技術面と予防の観点から考察している。全国の行政・教育機関で、インターネットの特徴を活かし、トラブルが発生しにくい利用法を伝えている。

内容：近頃、事件の背後にインターネット利用があることが伝えられることが多くなり、一見、インターネット利用がなければ、防げた事件に捉えられる内容ですが、果たして実際にはどうでしょうか？「木を見て森を見ず」という古くからの言葉が示す通り多くの問題に直面した時、目の前にある出来事だけがクローズアップされてしまいます。しかし、発生した事例への対策は、基本的に後追いであり、イタチごっこと呼ばれることもあります。インターネット問題はと呼ばれているものに焦点を当てると、コミュニケーションサービスは人と人をマッチングさせるサービスであり、考えるべきはインターネットサービスが無かったら本当に起きなかったということです。人類は目の前にある「わかりやすさ」に惑わされていたのは今に始まったことではありませんが、インターネットの登場は新しい空間という新たな環境が作り上げられ、そしてその環境に様々なテクノロジーでまさに今、対応しようとしています。「木」ではなく「森」を見ることで、人間がどのように対応していけばよいかを考えていくことで、より住みやすい環境を作ることができます。アンケートを読ませていただくと、参加された多くの方はそれぞれの分野で課題解決に携わっている方が多く、その苦労を書いてくださいました。森を見ることで、その共通点に気づいていただき、時間はかかるが、問題の本質を忘れずに対応する大切さを実感していただけた内容が多いことに、私もとても伝える意義を感じることができました。

現在のトラブルは5ステップ
キーワードは「安堵感」



連絡先：ネットスター株式会社(宮崎豊久)

〒108-0071 東京都港区白金台3-2-10白金台ビル7F

TEL:03-5795-4830

タイの子どもたちとHIV/AIDS

主催：横浜YMCA

世界119の国と地域に広がるYMCAは、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動しています。横浜YMCAは1994年よりタイ・バンコクYMCAと協働し児童保護プロジェクトを進めています。

内容：2015年春、バンコクYMCAの児童保護シェルターYMCAパヤオセンターおよびYMCAハッピーホームを訪問した大学生2人、高校生2人から、今年3月に行われたYMCAボランティアinタイについての報告を行い、私たちの活動について報告しました。その後、グループに分かれて簡単なアイスブレイキングを行ったあと、HIV、人身売買、ボランティアinタイでの活動についてのテーマに沿ったディスカッション、人身売買被害者の方々についての発表などを行いました。後半は特に人身売買という問題について深く考え、周りの人たちにこの問題を身近に感じてもらうために私たちがしなければならないことについて参加者の方々と意見交換することができました。今回は参加者の方々にも積極的に意見を出してもらい、お互いに知識を広めるいい機会になりました。

来場者感想：

- 若者がタイの現地に行って児童保護活動の実態を体験し、現地の人々や子供達と出会い、新しい気付きや新しい視点を持つようになった事はとても素晴らしい事だと思いました。(神奈川県 60代 その他)



連絡先：公益財団法人横浜YMCA 総主事室 国際・地域事業

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

E-mail:kokusai@yokohamaymca.org URL:http://www.yokohamaymca.org/

自分を大切にすること

主催：山田七重

保健教育の専門家として年間30回程度、中高生を対象に講演。山梨県・神奈川県性感染症予防パンフレット「じぶんたいせつぶっく」の著作担当。

内容:中学生向けの教育内容を模擬授業として紹介した。また事前・事後調査から見てきた子どもたちの意識の変化を踏まえて、自身の教育目標と実践の課題(内容が多い、わかりやすさと正確性の両立の難しさ、優先順位のつけ方等)についてふりかえり、さらに講演後のメール相談等から見てきた子どもたちの姿について紹介した。

来場者感想:

- 初めてお聞きしましたが、とても心地よかったです。(神奈川県 50代 教育関係)
 - 基礎的なお話から入り、わかりやすかった。(神奈川県 70代 その他)
 - 性教育の難しさは、教える人間の生き方・思想・器・力量、全てが問われるからだと思います。先生の明るいキャラクターを生かした楽しい授業、ヨカッタです。問題なのは、エイズ教育を年間ただ1度50分の授業で専門家に投げた学校では？(東京都 50代 保健医療福祉関係)
 - いかに教えるか、大切だと思った。(神奈川県 50代 その他)
 - 様々な方のメッセージがあって、参考になった(山梨県 20代 学生)
- ・・・愛情にあふれた感想ばかりで、性教育の難しさと楽しさ、健康教育の本来あるべき姿等、とても深い課題について考えさせて頂く機会となりました。つたない実践をお聴き下さり本当にありがとうございました。自身のより良い実践へとつなげると同時に、より効果的に子どもたちの健康を応援する社会づくりについて考えていきたいと思えます。



連絡先: 山田七重

E-mail: ynana@yamanashi.ac.jp

若者に聞いてほしい看護師と助産師のトーク

主催：星野貴泰と唐澤美鈴

性教育活動をする手術室看護師: 星野貴泰と若年女性の健康を考える助産師: 唐澤美鈴

内容:思春期の性教育は、性行動のリスクを認識した上で望ましい行動が取れる指導が必要であり、さらに性教育は対象者のニーズと合致した教育内容方法で行われるべきです。そこで、自分自身や自分の周りの人が思春期に後悔やつらい思いをした経験・出来事を思春期の子どもたちに話すことが「ニーズに合致した教育方法の一つである」と考え、講演を実施しており、実際に高校生に講演している内容と同じものを発表させていただきました。

また、女性の妊娠には適した時期があり、ある一定の年齢を過ぎると妊娠力はだんだんと落ちていきます。女性の社会進出が進み、晩婚化・晩産化が進む現代では平均初産年齢が30歳を超えており、40代での不妊治療件数は年々増加傾向にあります。結婚年齢が上がり、不妊に悩む夫婦が増えているという現実の中で、将来子どもが欲しいと望む若者に対し、妊娠・出産を視野に入れたライフプランを立てることの大切さについてもお話ししました。

来場者感想:

- すぐわかりやすく飽きずに聞くことができました。ありがとうございました。自分のことのように経験談を聞いて考えることができました。学校で教科書から学ぶ知識だけでは、ここまで考えることができなかったんじゃないかなーと思いました。そして、妊娠については将来の自分のこととして、今からしっかりと考えていこうと思いました。働きだしたら、忙しくてなかなか妊娠や将来設計をして考える時間は少なくなると思うので、学生として考えられることは考えていこうと思います。(千葉県 20代 学生)



連絡先: 星野貴泰

E-mail: tkstarys.lovelives@gmail.com URL: <http://muchasgraciasamigo.wix.com/tkstarys>

宗教とエイズ Part 10

松田清四郎（カトリック湯江教会司祭）

平良愛香（日本基督教団牧師）

岩室紳也（厚木市立病院医師）

古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺僧侶）

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：横浜で始まった「宗教とエイズ」。10回目を迎え、京都・佐賀のフォーラムでも実施するに至っています。今回も、「コンドームの達人」岩室紳也先生のコーディネートで、宗教者の本音トーク。エイズ、性、セクシャリティ、生きる死ぬ。話題が多岐にわたってしまって聞きにくい可能性もあるが、全ては繋がった問題であることを示している。死は怖くないという松田さん、わかるけど死ぬのは怖い古川…死は死だが、受け止め方が信仰によって変わっていく。すなわち、生き方も変わっていく。ゲイをカムアウトしている平良さんは、それぞれがそれぞれに良いのだという聖書の教えを説き、それぞれのアプローチから、エイズを通して宗教の本質に迫った。

来場者感想：

- 仏教、カトリック、プロテスタントのお話を同時にお聞きする機会はないので、興味深かったです。「生」「死」という共通の話題はわかりやすかったです。宗教を身近に感じることができました。宗教を「文化」として捉えると、AIDSや性について宗教を通していろいろと考えることができるように思いました。（神奈川県 40代 教育関係）
- 様々な視点からのご意見が聴けてとても面白かったです。ほぼ無宗教である私の方が、無いはずのきまりにしばられ、頭がかたくなっていたんだと気付かされました。神にせよ仏にせよ、生きる者として許され守られているんだと知れて、とても心が落ちつきました。（神奈川県 20代 教育関係）
- 宗教と性教育は生をみつめるきっかけだと感じました。無宗教という壁で考えるチャンスを減らしていたなと思いました。私たちは宗派で分かれるのではなく、一人の人間として宗教を利用しているのだと感じました。（東京都 20代 学生）
- 神社の神主さんの話も聴いてみたい（東京都 30代 教育関係）
- 三派の意見を同時に聴くことは貴重。生と死の共通話題はわかりやすかった。宗教を身近に感じた。宗教を文化として捉えると、AIDSや性について宗教を通していろいろと考えられる。（神奈川県 40代 教育関係）
- 平良さんの存在自体が私の心を温かくする。「～でいいんだ。こんな私でも」のフレーズは常に仰って、いつも救われる。少ししか参加できなかつたが涙が出た。古川さんの熱弁も圧倒。皆さん、あついながらに穏やかな方ばかりで癒された。（埼玉県 30代 NPO/NGO関係）
- 各宗教の話から、死と向き合うことを考えた。松田司祭の「死は怖くない」が印象に残った。（神奈川県 40代 その他）
- 平良さんの話に共感できる部分が多い。別プログラム含め自分の考えと違和感がなかった。性と死が同列で語られるのは古代からだが、宗教者からこういう形で聞けるチャンスはなく、よかった。それぞれとお話ししたい。（神奈川県 30代 その他）
- 様々な話が聞けてよかった。それぞれの宗教のイメージも変わったし、宗教から命を考えると奥深かった。もっと深く考えたいテーマ。（東京都 20代 その他）
- 死と性の話が多かったが、それはそれで勉強になってよかった。（神奈川県 40代 保健福祉医療関係）
- 宗教がもっと人々の生活に浸透すれば悩みも解決する力がつくのでは？と感じた（京都府 40代 保健いふよう福祉関係）



体験！デートDV予防プログラム実施者養成講座

主催：認定NPO法人エンパワメントかながわ

暴力のない社会の実現をめざし、一人ひとりがとって大切であることを伝える人権啓発活動を行っています。

内容：エンパワメントかながわが開発したデートDV予防プログラムが全国に広がりつつあります。今年は高校生向けプログラムの実施者養成講座が始まるので、その内容をご紹介します。題材にする劇を今年は初めて、役者さんに演じてもらってDVDを作成したのでお披露目も行いました。



来場者感想：

- 講義形式でなく、グループワークを入れるとやっぱり楽しいなと思いました。今までデートDVというと、「もう別れな」としか言われてあげられていませんでしたが、気持ちを伝えるとか関係性を変える方法はいろいろあるんだと気付くことができました。
- デートDVについて知ると、周りの友人が被害にあっているなと思いました。身近なところで起こっていることがわかりました。対等な関係をつくるコミュニケーションが大切だなと思いました。
- 人が元気になっていくためには、おだやかで安心できる場が必要なんだと感じるワークショップでした。

連絡先：認定NPO法人エンパワメントかながわ TEL:045-323-1818 FAX:045-323-1819

E-mail:kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp URL:http://npo-ek.org/

牧師の僕がゲイでよかったこと

主催：平良愛香

内容：男性同性愛者であることをカムアウトして牧師になった私が、その経緯や、その結果得たことを語る中で、「一人一人が異なる存在である」ということや「自分は大切なんだ」ということ、「性は豊かなもの」ということを参加者に気づいてもらえる会となったと思う。またエイズとの関わりについて、自分の中の偏見と向き合うことで、課題を担い始めることが出来たというエピソードを紹介。予定外で講演中に歌を歌うことになったのも、文化フォーラムの自由な雰囲気ゆえだと感じる。講演後、一人の参加者が挨拶に来てくれた。「昨年講演を聞いた。男女二分法で苦しんでいる人の存在に気づき、自分の職に活かしたいと思ってそれを実現させた。先日、男女二分法の中で行き場所が見つけられずにいた人が訪れ、とても喜んでくれた。そのお礼を言いたくて今回も来ました」と。「私の話」を必要としていた人がただだけでなく、「私の話を聞いた人」を必要としていた人が現れたことに驚き、とても嬉しくなった。これからも機会があれば語っていく必要性を改めて感じた。

来場者感想：

- 平良さんのライフヒストリーをもとに、セクシュアリティと宗教について考える機会が得られて、とても貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございます！（東京都40代 NPO/NGO）



連絡先：平良愛香

〒252-0314 相模原市南区南台6-4-2

日本キリスト教団三・一教会

TEL/FAX:042-712-1689 URL: http://trinity.c.ooco.jp

ともに生きる。自分らしく生きる。

主催：神奈川県健康危機管理課

講師：NPO法人akta コミュニティセンター長 荒木順子

内容：前半は、セクシュアリティの多様性とaktaのコミュニティセンターの活動についてのお話と、陽性者やその周囲の人の気持ちを考える朗読とグループワークを行いHIVのリアリティを共有しました。後半は、受講者全員が輪になって触れ合い‘HUGたいそう’を行いました。みんなで一緒に「ともに生きる」「自分らしく生きる」を学び考え、そして実感しました。

来場者感想：

- エイズやLGBTのことは別世界のことでではなく、共に生きる、ということを実感できた講座でした。
- セクシュアリティについては、いわゆるグラデーションという考えがとてもしっかりきました。男・女と二分する考え方だけではないことを知ることができました。
- HUG体操はスキンシップという非言語のコミュニケーションを用いながら皆が笑顔になっていて、身近な人ともしていきたく感じた。
- すごく楽しかったです。HUG体操、最初は恥ずかしくてやるのにとまどいがありましたが、最後は思いっきり楽しむことができました。
- 参加されている方の笑顔がとても良かったです。



連絡先：神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課
感染症対策グループ

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

TEL:045-210-4793

即興劇でともに生きるを感じよう！

主催：劇団プレイバックーズ

観客のみなさんが実際に体験したお話を、その場でお聞きして打ち合わせなく、即座に劇として即興で演じる劇団

内容：

- ①導入 ここに来るまでの気持ちをインタビューし、身体と声で表現する(手法 動く彫刻)
 - ・せっかく遠方から横浜に来たので、横浜らしいものを食べたい。
 - ・減量中で、昼食はお菓子だけ食べて我慢した。やっぱり、食べたい、と思う。
- ②即興による再現ドラマ (手法 ストーリー)
- ③2つの異なる気持ちをインタビューし、それを体と声で表現する。(手法 ペアズ)
 - ・就職が決まった:すがすがしくうれしい気持ちだ ⇔ 友人はまだ決まってないので素直に喜べない
 - ・母校の後輩が合唱コンクールの練習をしているので見に行った:上手なので勝てるだろう ⇔ 人数も少なく勢いがないので無理なのではないか
- ④即興による再現ドラマ (手法 ストーリー)
 - ・「違う場所にいるあなたへ」最近、故郷に戻り、毎日の通勤時に小学校時代の友人の自宅前を通るようになった。」彼女は、小学校のとき、白血病で亡くなった。私たちは良い友だちだった。彼女が入院してからは、文通をした。下ネタを書き合うのが楽しかった。彼女が亡くなったとき、クラスの中でランダムに選ばれた子だけが葬儀に参列し、私は行くことができなかった。高校生になり、ようやくお線香をあげにいくことができ、彼女のお母さんに喜んでもらった。そして今、毎朝、毎夜、彼女の家の前を通ることになった。その度に、彼女に挨拶の言葉を投げかけている。
- ⑤まとめ これまで語られたストーリーのエッセンスを演じ、公演内容を振り返る



連絡先：劇団プレイバックーズ

〒233-0011横浜市港南区東永谷1-15-30-305

TEL:045-711-1237 E-mail:info@playback-az.com URL:http://www.playback-az.com

性感染症と女性

主催：厚労科研エイズ対策研究事業研究分担「HIV感染妊婦に関する国民への啓発と教育」班

HIV・STIの国民への啓発と教育を行っています。

内容：現在、HIV母子感染予防対策はほぼ確立し、早期から医療介入ができれば垂直感染の危険性はほとんどない。しかし、HIVの認知度が高まったにも関わらず、その当事者への関わり方に関しては、医療者も含め、未だ根強く偏見が残っている。また、HIV感染と同様の経路で感染するSTIも多く、若年層の感染拡大や感染者の不妊など問題は尽きない。

そこで今回、「性感染症と女性」というテーマで自分とパートナーの健康について考える機会となるよう厚労省HIV母子感染研究班のデータを用いながら、聴講者参加型の講義形式で発表を行った。

進行役からの質問に対し参加者がリモコン操作で回答することで、質問に対する参加者の回答状況をリアルタイムに集計できる「リモコン型レスポンスアナライザシステム」を活用しながら講義を進めることで、参加者自身が自分の知識の確認をしながら講義内容を理解できたように思う。また、女性の性感染症に焦点を当てたワークショップとしていたが、講義終了後には男性の立場からの不妊治療に対する質問や高校生から受けた相談への返答の仕方などの質問を受け、具体的な対応策について情報提供や意見交換もでき、テーマの枠を超えた時間を過ごすことができた。

来場者感想：

- HIV治療の現状、特に女性のための活動・現在像が聞けて大変良かったです。HIV/エイズへの関心が社会の中で薄れていく中、このような学習会を開くことは大切なことと思います。(東京都 60代 NPO/NGO)



連絡先：分担研究者 塚原 優己

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2丁目10番1号 国立成育医療研究センター

TEL:03-3416-0181 FAX:03-3416-2222

エイズの授業を体験しよう

主催：HAATAS

HIV/AIDSに関するボランティアチームです。国際保健NGOシェアのアドバイスを受けながら活動しています。

内容：HAATASが東京都内の高校で行っているHIV/AIDSの啓発授業について紹介するとともに、授業で行っているワークショップを行いました。当日は約15名の方が参加され、その多くは学校や保健所などでHIV/AIDSの講義や授業を行っている方でした。

当日は3つのワークショップ「水の交換」、感染の可能性のある行為を考える「感染する？しない？」、コンドームの使用手順を確認する「コンドームの使い方」を行いました。「水の交換」は、HIVの感染を視覚的にイメージできるため非常にインパクトがあり、参加者にも好評でした。一方で「感染源を探す」ようなネガティブな行動が起こらないよう、配慮が必要であることも再認識しました。

最後には、参加者とそれぞれの経験を共有するディスカッションも行うことができ、HAATASメンバーにとっても学びの多い時間でした。

来場者感想：

- 様々な校種実践されているワークショップを多く体験でき、また、行う上でのポイントを教えて頂き、とても勉強になりました。私は高校で養護教諭をしています。時間をみ付けて、性教育が行える機会をもうけたいと思います。(神奈川県 20代 教育関係)



連絡先：HAATAS

(ハータス:HIV/AIDS Action Team At SHARE)

E-mail:haatas.atshare@gmail.com URL:<http://share.or.jp/share/join/volunteer/haatas.html>

「外国人お断り」の扉をひらいて

主催：NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター

外国籍住民たちへの家探し。言葉や文化、生活習慣などが原因で起こるトラブル解消のためのアドバイス。公営住宅への入居サポート。生活困窮者への自立支援。6言語での相談業務。

内容：外国人、AIDSまたはその他の感染症を患う人たちと如何に共に理解し、尊重し合う事ができるかを考えた。

○エイズとはどのような病気なのか、どのような捉え方をされているのか、患者の現状について正しい知識についての短い講演。

○パワーポイントを用いながら、外国人とは、住民とはどのような人たちなのかを学び、様々な文化的、民族的、地域的背景を持つ人たちと共に生きることについて学んだ。

○ワークショップを通し、病気や感染症を持つ人たちと地域で生きるために、多様性とは、感染症を持つ人たちとの共生についてグループに分かれて話し合い、共有するための時間を持った。

来場者感想：

- 外国人と共に生きるという事の本質に迫る話し合いができた。(神奈川県 学生)
- 多様性を受け入れるというテーマで緩やかなつながりを考える良い機会となった。(神奈川県 40代 NPO/NGO)
- 外国人とはという質問が難しかったが勉強になった。(神奈川県 10代 学生)
- 人権問題として如何に取り組むか考えさせられた。(神奈川県 40代 その他)
- 今回、AIDSについて知ることから始めました。1人でも多くの人に知ってほしい。(神奈川県 40代 その他)
- 多文化共生を改めて考えるきっかけになった。アイスブレイク、ワークショップが楽しかった。(神奈川県 20代 保健医療福祉関係)



連絡先：NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA2階 TEL:045-228-1752

親子で考える教育プログラム～腹話術～

主催：JOINT HEART (畠山雅行・中井幸永・人形の「ちえちゃん」)

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動を行います。

内容：参加者同士で話し合う。参加型研修を実施する。事後アンケート回収。

[教育プログラム]:◎コミュニケーションゲーム ◎わたしの木

1. グッド・オア・ニュース:24時間以内にあった出来事を順番に話してください。どんな小さなことでも構いません。例:「いつも通りの時間に出たが、一本早いバスに乗れた」
2. 質問力:質問されてから話してください。相手の事を知るための質問なら何でもOK。例:「趣味は何ですか?」「好きな食べ物は?」「嫌いなスポーツは?」など。
3. コミュニケーションの基本は会話 会話の基本はキャッチボール。その状況をゲームで自然に作り出し、リラックスの雰囲気をつくる。
4. 「わたしの木」をやって、どうでしたか?「わたしの木」を見て、どのように感じましたか?

来場者感想：

- 腹話術の人形を動かす事が出来て楽しかった。分かりやすかった。
- 親子で参加しましたが、知らない人の中でも子供が会話のキャッチボールが出来て喜ばしかった。
- 仲良く参加出来た。とてもアットホームな雰囲気で楽しく学べた。
- 参加型がよい。



連絡先：JOINT HEART 代表 畠山雅行 FAX:0743-78-9841 E-mail:m-hatake@m4.kcn.ne.jp

薬害エイズの運動

主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ被害者と共に地域で学習会を開いたり薬害問題やHIVエイズのイベントに参加したりしています。薬害エイズ裁判の和解後も新たな薬害問題が発生して繰り返されています。新たな薬害問題についても薬害被害者を呼んで学習会を開いています。薬害エイズを考える山の手の会は当事者の生の声を社会に伝えることを基本に活動しています。

内容:今回は薬害エイズ裁判の解決の大きな原動力となった運動をテーマに参加者と分かち合いました。前半は薬害エイズ裁判の和解当時の原告団長と被害当事者、また、当時の学生、当時薬害エイズ取材した新聞記者による運動の状況を話してもらい、後半では参加者も加わって繰り返される薬害問題の中で運動がどう変わってきたか、それぞれの体験をふまえながら話し合いました。今年は、薬害エイズ問題が社会に注目されるきっかけとなった当時の厚生省を取り囲んだ「人間の鎖」から20年。この節目の年に被害当事者と運動の当事者が参加者と共に分かち合えた有意義な学習会となりました。

来場者感想:

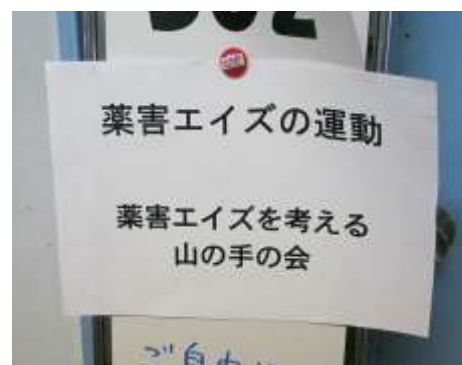
- 和解の意味と記憶の継承について考えさせられた。(東京都 40代 その他)

連絡先:薬害エイズを考える山の手の会 江川守利

〒123-0865東京都足立区新田3-17-2-105 TEL/FAX:03-6676-2181

E-mail:egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp

URL:http://blog.goo.ne.jp/egawa_moritoshi



若者たちの性・デートDV

主催：ウィメンズクリニック・かみむら 上村茂仁

内容:このフォーラムではここ数年デートDVについて話しています。なぜなら性感染症の感染率には人間関係が大きく影響しているからです。毎年ホールを使用させていただき日曜日の朝10時から話をさせていただいています。AIDS文化フォーラムだからこそ、人と人の付き合い、孤立しない繋がりを持った生き方を大切にしてもらいたいと思い、デートDVを切り口として毎年話をしています。もちろんデートDVに関しても中学生レベルでも理解できるように、恋愛からデートDVに変化してゆく過程を詳しく解説しました。そしてDVを予防できるのは繋がる力なのだということも解説しました。これからも人との付き合い方、繋がり方について私なりに大切だと思う内容を話して行きたいと思います。

アンケートにあるように聴講してくださった方々には評価が良かったので次回からはもっとたくさんの人に聞いていただこうと思います。



来場者感想:

- SNSのやりとりなど他人の目に触れにくいところで「約束」しぼりがおきているようでちょっと怖かった。内容が良かったのでもっと多くの人に聞いて欲しいと思った。養護の先生など聞いてほしい。親子で一緒に聞いても良い内容なのでそういった呼びかけでも良いのかもしれない(神奈川県 40代 NPO/NGO)
- 繋がることって大切なことだと思いますが、繋がれる先をどう見せるか提供するのが難しいですね。電話相談やメール相談で10代、20代の人と関わることの難しさ、繋がりにくさを思い起こしました。(神奈川県 50代 その他)
- 校内でデートDVがあると被害者も加害者も生徒なのでどちらのケアも大変です。特に加害者の対応が難しいです。相手を変えて被害者は増えていきます。加害者は表面的には暴力はいけないと言います。教員のできることは限りがあるので専門機関に相談しますが、加害者のついてはどう対応すればよいのなかなかアドバイスを受けられません。(埼玉県 40代 kyouikukankei)

連絡先:上村茂仁(ウィメンズクリニック・かみむら) 〒700-0901岡山市北区本町4-18コア本町3F

E-mail:kamimura@kitty.jp

人身取引をなくそう！漫画プロジェクト

主催：ノット・フォー・セール・ジャパン (NFSJ)

現代の奴隷制／人身取引問題の解決を目指し、講演・映画上映・イベント・情報発信による啓発活動を行っている。

内容：タイにおける子どもの人身取引被害を防止するために、CauseVisionというNYの団体が作ったタイ語の漫画『陽はまた昇る』の日本語版を、このたびNFSJとECPAT/STOP Japanが印刷しました。今回は完成したてのこの漫画冊子を題材に、セミナーを行いました。

印刷費用を賄うためにネット上で寄付を募った話から、世界中に蔓延している人身取引問題の概要、日本における人身取引（技能実習生問題や、JKビジネス・児童ポルノなどの性的搾取）についてNFSJの山岡と栗山が発表し、タイを含む東南アジアでの子どもの性的搾取の現状についてECPAT/STOP Japanの斎藤さんが報告。さらには漫画家の赤石路代さんが、作品に込めた思いを熱く語っていただきました。この漫画を通して世界と日本で起きている人身取引のことを知り、周囲の人にも知らせてほしいという願いを含め、参加者の皆さんにも1冊ずつお渡ししました。

来場者感想：

- 知らないことも多かったので、知ることができて良かった。私自身でも色々調べて、まわりの人にも伝えていこうと思った。（静岡県 10代 学生）
- 人気漫画家の方とのコラボは一般普及にとっても効果的だと思う。（神奈川県 50代 その他）
- 被害の実態が見えづらいからこそ、予防的にも被害者救済的にも、啓発と教育が必要だと感じた。（東京都 30代 教育関係）



連絡先：ノット・フォー・セール・ジャパン (Not For Sale Japan)

〒180-0022 東京都武蔵野市境1-3-4-105 武蔵野境郵便局留め

E-mail: japan@notforsalecampaign.org URL: <https://www.facebook.com/notforsalejapan>

人生が輝く、マイクロストレス対処方法

主催：一般社団法人日本心理療法協会 講師：椎名雄一（常任理事）

内容：マイクロストレス（気にするほどでもない小さなストレス）は見逃されがちですが、それが積み重なって、大きなストレスや問題に発展します。一方で、現実社会においてマイクロストレスを排除するのは不可能に近いものがあります。仕事や学業のプレッシャーや経済的な悩みだけでなく、マナーの悪い人が多かったり、高度な技術を理解しなくてはいけないストレスもあります。これらのストレスを軽減するには自分自身の内的な世界観を変化させることが重要です。講義の中で以下のようなアイデアが出ました。スマホをしながら歩いている人を見るとイライラするマイクロストレスに対して、「あの人は本当は犬なんです。でもブルーライトを顔に当て続けていないと変身が解けてしまうので顔に光を当てています。見てください。あの真剣な顔。ゲームをしていたり、メールをしているように見えますが、本当は命がけて顔にライトを当てているのです。かわいそうですね。」という世界観で見ると、滑稽な場面に見えます。レストランに食べ物を持ち込む人には「あの人たちはアリなんです。食べ物を溜め込むことを一生懸命にやっています。アリの巣コロリを置いておくといなくなりますよ」といった感じです。日常生活に支障がない場面においては大きく現実を歪曲させることでマイクロストレスを感じないばかりかうまくすると毎日が楽しくなります。

来場者感想：

- 長年のストレスが、発想の転換で軽減できるというのは、まさに目からウロコでした！この手法を使えば、日常のほとんどのストレスを解消できるのでは...と嬉しくなりました。早速、きょうから実践してみます。
- ストレスはネガティブにしか捉えたことがなかったと思います。しかし、本日のお話を聞かせていただいて、ストレス要因も実はポジティブに捉えられることがわかりました。

連絡先：一般社団法人日本心理療法協会

〒194-0013 町田市原町田4-1-10(4F)

E-mail: info@j-mental.org URL: <http://www.j-mental.org/>



『今度はHを断ります!』と言わせた性教育

主催：星野貴泰

手術室看護師として勤務する傍ら、県内中学校・高校で性教育活動を行っている。

内容: 昨年実施した講演活動の実績報告を行った。講演を聞いた生徒の感想と実際の講演の内容をかいつまんで紹介し、1時間枠から2時間に延長して話をした。

講演活動の目的は、「思春期の性行動」、「性感染症」、「妊娠・中絶」について話をする中で中高生の行動変容につなげることである。平成26年度講演回数は13回、(高等学校が7校、中学校が6校)であった。講演を聞いた生徒は合計で3747名であった。講演ではパワーポイントを使用し、32枚のスライドのうち23枚で、自分自身または、自分の周りの人が経験した経験談を話している。生徒のニーズに即した内容で講演を行うことができ、普段の思春期講演会などでは聞く機会の少ない体験談を話すことで「命について考えてもらう機会」になったと考える。さらに目的である行動変容に繋がった感想や、行動変容に繋がるような感想をもらうことができた。

来場者感想:

- 講師の先生の話し方や体験談が多くわかりやすかった。
- 講師の体験談や妊娠や中絶をした女性の話を聞いて命は大切だと思った。
- 命の大切さに気付いた。

連絡先: 星野貴泰

Twitter: @tkstarys

URL: <http://muchasgraciasamigo.wix.com/tkstarys>



HIV感染者の分娩と未受診妊婦の問題

主催：認定NPO法人AIDSネットワーク横浜

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV、AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。

内容: 水主川(かこがわ)先生は、浜松医大、国立国際医療研究センターを経て、聖マリアンナ医大で分娩や妊婦健診にあたる傍ら、「飛び込み分娩」や「未受診妊婦」、「望まない妊娠」等の社会問題の解決や啓発に力を入れていらっしゃいます。軽妙な話し方で、医師側の率直な感じも交えて、易しくお話をされました。内容は、妊婦検査、HIV感染妊婦の現状、出産方法、施術体制など、普段聞くことのない現場の対応を交えて展開され、さらに救急搬送されてくる妊婦の事例から、望まない妊娠、飛び込み分娩、育児放棄、児童虐待の話へと進みました。途中での質問にも丁寧に答えられ、講演後の質疑も活発でした。先生の都合がつけば来年度も開講したいと思います。

来場者感想:

- 32年間病院で助産師をしていますが、妊婦への検査の説明の重大さと細かい気配りの必要を実感しました。HIVの現状を把握できたので、職場に伝えていきます。未受診妊婦や児童虐待は数多く体験しましたが、話を聴き、がんばっていきます。(神奈川県 60代 保健医療福祉関係)
- 「妊娠・出産前からの支援が必要である」←なるほど！(兵庫県 50代 NGO/NPO)
- 予期しない妊娠の為に、これからは教育が必要なのではないかと思いました。そうならない予防として、早期の知識が不足している現代は問題があるとも思った。産婦人科への抵抗や躊躇や今の若年層が抱える問題は多い。知識の無さを感じる。(東京都 40代 学生)

連絡先: 認定NPO法人AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階

横浜AIDS市民活動センター内

TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809

E-mail: any@netpro.ne.jp URL: <http://www.netpro.ne.jp/~any/>



心に響くピアエデュケーション

主催：遠見才希子

亀田総合病院 産婦人科 医師

内容: 大学在学中に「ピアエデュケーション」に出会い、紙芝居片手に全国300校以上の学校で「自分自身が中高生のときに聴きたかった本音」を伝えてきた。産婦人科医となった現在も仕事のかたわら地道に講演活動を続けている。今回は、高校生向けの模擬授業を行った。性感染症の広がり体験できる「感染広がるゲーム」や、風船をもった男性を子宮に見立てて妊娠の仕組みやクラミジア感染について説明した。タイ・ケニアで目の当りにしたHIVと共に生きる人々についてや自分がHIV検査を受けたときの心境、また、中絶を経験した友人の手記や、自分が産婦人科医師になり中絶手術を行う側となったときの葛藤する気持ちなどを飾らない言葉で語った。性教育に携わり早10年だが、年齢の近いピアだけでなく、様々な年代の様々な職種のピアが「もっと気軽に楽しく真面目に性を考える場」を作りつづけていく必要があると考える。

来場者感想:

- 遠見先生の本は読んでいましたが、今日初めて生の声が聴けて本当に嬉しかったです。自分が高校生ときに先生の話が聴きたかったなあと思いました。私自身も性について伝える立場なので先生から受け取った気持ちを子どもたちに伝えていけたらと思っています。これからも遠見先生のスタイルを貫いて頑張ってください。ありがとうございました。(群馬県 20代 保健医療福祉関係)



連絡先:

遠見才希子ブログ「えんみちちゃんの性教育」 <http://ameblo.jp/emmskk>

世界がもし100人の村だったら ～HIV/AIDSバージョン～

主催：横浜YMCA ACT

内容: 始めに知りたいこと、HIV/AIDSに関してやっていることについて付箋に書いてもらい、次に「AIDS」「性」というキーワードを元に思い浮かぶ言葉を書き出してもらい、そこから派生するイメージを書き出しました。その後色紙入りコップを使い、参加者同士で混ぜ合い、最初は一人が持っていたHIVウイルスがどのように複数の人へ拡大していくかを知ってもらうシュミレーションを行いました。

また、性別・年齢等の特徴が書かれた「役割カード」を用いて役割ごとの指示に従って移動しながら世界が100人の村だった場合の男女比、年齢別割合等を学び、合間に世界のHIV感染者を示した折紙のヤッコとレッドリボン作りを行いました。作成後は役割カードの「大陸」ごとに分かれ、世界のHIV感染者の現状をヤッコを通して学んでもらいました。ふりかえりでは参加前と参加後の印象を比較し、最後に実施者が100人村を輪読し終了いたしました。

今回はフォーラムのテーマである「今こそ、ともに生きる」ことを考えながら、学びの機会としました。ご参加いただきました皆様、ボランティアの皆様、主催者の皆様にお礼を申し上げます。

来場者感想:

- 楽しく理解ができ、いくつかのヒントを得ることができました。ありがとうございました。(京都府 60代 教育関係)

連絡先: 横浜YMCA ACT

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1

YS西口ビル2F

TEL:045-316-1881 FAX:045-314-6805

E-mail: higuchi_sayaka@yokohamaymca.org



HIV/AIDS患者の高齢化 -医療現場から見た課題-

主催：神奈川県健康危機管理課

講師：横浜市立大学附属病院 上田敦久（医師）、筑丸寛（歯科医師）、鶴藤有紀子（看護師）、谷口桃代（SW）

内容：高齢化する患者たちは、どのような困難を抱えているのか。HIV/AIDS治療が進歩した一方で浮き上がった新たな課題について、正しい知識と最新情報を交えつつ、お話ししました。医療と介護福祉の包括的な地域連携は、今後ますます重要となってきます。

来場者感想：

- 告知とか内服の継続とか、精神的なものや、多くのことを体験してきているのだなあと思いました。その背景を考えて関わっていきたいですね。（神奈川県 20代 保健医療福祉関係）
- 陽性者が高齢になったとき、受け入れの難しさなどで、すごく不安な日々をすごしてらっしゃることが分かりました。もっとたくさんの施設での受け入れや、新たな受け入れの場があるといいなと思いました。（三重県 30代 教育関係）
- AIDSの治療がすすむことによって、新たな問題が出ていることがよくわかった。ただこわいだけではなく、何が大丈夫で、どこに気を付ければ良いかを知る必要性を感じました。（神奈川県 40代 教育関係）
- HIVに関してもっと知識を深めていきたいと思いました。高齢化問題は介護現場においてもこれからの課題であり、医療と介護、地域の連携は必要と考えます。（神奈川県 50代 保健医療福祉関係）



連絡先：神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL:045-210-4793

性感染症にご注意！

主催：認定NPO法人AIDSネットワーク横浜

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV/AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。

内容：昨年に続き、井戸田先生をお迎えして、STI全般についての講演をパワーポイントを中心に行いました。しらかば診療所での午前中の診察を終え、急いでこられました。30分遅れで開始。先生の話しぶりで会場は最初から和やかな雰囲気。診療所での蓄積データ、具体的な症例などを交えて、STI全般について、平易にお話をされました。前半終了後の質問、討議が活発で、先生が後半（おそらくセクシャルマイノリティーの診療の話？）を始めようかというところで15時になり、「後半は来年度に」になりました。

来場者感想：

- 先生のマイペースな雰囲気と「病気が好き」という姿勢がおもしろかったです。（山梨県 40代 教育関係）
- 医師の立場からの医学的な診断・治療の実際をとともわかりやすく説明いただきました。最新の状況も踏まえて、性感染症の動向を示してくれたので、自分では調べられない状況がわかりました。（東京都 30代 教育関係）
- 最近の性感染症の情報が知れてよかった。助産師としてこの情報を生かして生きたいと思います。（神奈川県 60代 保健医療福祉関係）
- 性感染症の話聞くことがなかったので、勉強になった。特に梅毒が増えている状況の話を聴けてよかった。（神奈川県 30代 保健医療福祉関係）
- 現場からの貴重なお話が聴けて、大変勉強になり、STDをあたたかく見守ってられる姿に感動しました。（京都府 60代 教育関係）



連絡先：認定NPO法人AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階横浜AIDS市民活動センター内

TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809 E-mail: any@netpro.ne.jp URL: http://www.netpro.ne.jp/~any/

水谷修 夜回り先生講演会

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

「明日は、もうそこに。どんなことでも、どんな人でも、やり直せるんだよ。」

内容:子どもたちを取り巻く様々な状況、薬物、精神疾患、いじめなどをキーワードに、まず子どもたちに沢山の笑顔と褒め言葉を与えられるように大人たち、親自身が変わることの大切さ、その気づきを来場者は水谷先生のお話から受け止めました。初めて講演を聞く方、高校生以来という方、また毎年来場されるリピーターの方々と世代も職業も様々な方が来場され、それぞれが身近にできる一步を考える機会になっています。

来場者感想:

- 大人が変わることが、とても大切だと改めて気づきました。どれも1つ1つの言葉がつきさりました。見て見ぬふりをしない大人、後姿を見せられる大人になりたいと思います。(沖縄県 30代 教育関係)
- わたしに何をしていけるか分からないけど、目の前にいる子を大切に、愛されている、大事にされていると思えるよう関わっていくようにします。(神奈川県 30代 教育関係)
- メモが6ページにもおよびました！絶大な信頼を持って子どもたちと相對している姿に感動しました。私も携帯電話にしばられているので、夜は触らないように気を付けます。(神奈川県 20代 その他)
- 子育てに追われる毎日、悩むことも多いですが、少し前向きになれた気がします。とても深いお話ありがとうございました。(埼玉県 30代 その他)
- いくつになってもほめられる事、認められる事、役立てたと実感できる事はうれしく、明日の力、生きる力になります。そして他に優しくなれます。子育ても終えた私が日々実感しています。(神奈川県 60代 その他)
- 子ども達を救うのは、家庭・社会だという事、改めて痛感致しました。(神奈川県 50代 その他)
- いつ聞いても心打たれる話です。自分も教育者の一人、親の一人として笑顔をわけてあげられる人間になりたいです。(神奈川県 50代 教育関係)
- 家庭の中がまず幸せであるということが、子どもにも、世の中、社会にも重要なのだと感じました。(東京都 20代 学生)



連絡先:

水谷修オフィシャルウェブサイト/あした、笑顔になあれ:<http://mizutaniosamu.com/>

おネエと語ろう！性感染症と予防のあるある

主催：公益社団法人東京都臨床検査技師会

臨床検査技師、衛生検査技師の倫理の高揚・資質の向上を図り、臨床検査の普及啓発、人々の健康増進・医療・公衆衛生の向上に寄与することを目的とする法人

内容:今回、(公)東京都臨床検査技師会として、初めてAIDS文化フォーラム in 横浜にて講演をさせていただきました。初めてということもあり、講演の内容や準備等にかなり困惑しました。また、当日の講演に観客が集まるか、とても不安でしたが、講演が始まると、一般の方から医療従事者まで、席に座れないほどの観客に來場していただき、安堵いたしました。講演自体も観客との活発な意見交換ができ、会場全体で盛り上がったため、初めての講演にしては、成功であったと言えます。



来場者感想:

- 普段聞けないような話が聞けてよかった。エイズについて、もっとみんなが理解して広げていく活動が必要であるとわかった。嫌がらずに検診に行くことや、コンドームをつけるなどをしていくことも人として大切なことだとわかった。(神奈川県 20代 教育関係)

連絡先:公益社団法人 東京都臨床検査技師会 〒102-0073東京都千代田区九段北4-1-5 市ヶ谷法曹ビル405
TEL::03-3239-7961 FAX:03-3556-9077

ライフプランから考える性の健康教育

主催：NPO法人ピルコン

NPO法人ピルコンは、正しい性の知識と判断力を育む支援により、これからの世代が自分らしく生き、豊かな人間関係を築ける社会の実現を目指す非営利団体です。

内容： NPO法人ピルコンでは中高生へキャリア教育の要素も含めた性教育「LILY」を行っており、内容の一部にHIV/AIDSも含まれています。今回はLILYの模擬授業を発表しました。

参加いただいた方には医療関係者や養護教諭の方も多く、ピルコンに以前から興味をお持ちの方もいました。LILYの運営についてのご質問やご感想を発表中にいただき、私たちにとっても貴重な学びの場となりました。

参加者には発表を高校生の心に戻って聴いていただきましたが、当時の性や恋愛の悩みを思い出し、グループワークでお話くださった方もいました。終了後のアンケートでは養護教諭の方から「性教育のときの参考にしたい」という嬉しい言葉も頂きました。

皆さまからいただいたご意見を参考に、LILYをさらに良いものにしていきたいと思っております。また今回得られたご縁を大切に、AIDS教育や性教育が普及するよう協力していけたらと思っています。大学生や若手社会人という身近な存在が行う性教育は数が少ないと思います。今回直接お会いできなかった方も興味を持っていただけましたら、声をかけてくださると幸いです。

来場者感想：

- PILCONが高校生に対して行う授業を体験できて良かったです。私自身も性教育を行っているので勉強になりました。(山梨県 20代 学生)



連絡先：NPO法人ピルコン

〒191-0041 東京都日野市南平7-24-82

TEL:090-5179-3449 E-mail:pilcon.info@gmail.com URL:http://pilcon.org/

アフリカのエイズ～青年海外協力隊員のチャレンジ

主催：横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが受託し運営しています。

内容：青年海外協力隊員エイズ対策として、啓発・調査・支援活動に2年間ガーナで取り組み、現在は国際保健を専門にされている林さんをお招きし、現状から活動内容を中心にお話しいただきました。講演後は若い世代から多くの質問が寄せられました。

来場者感想：

- ガーナでの様子がわかった。コミュニケーションの場だけではなく指導なども一緒に行っていくことがエイズを理解していく上で大事だとわかった。海外での状況もそうだが、まずは日本でのエイズの様子や状況というものをしっかりと知っていく必要があると思った。(神奈川県 20代 教育関係)
- アフリカ・ガーナでの活動内容を知り、その現地にあった対応や対策があるのだと思いました。日本でもHIVはまだ偏見などがあり、スタンダード化されていないので、その他の同じ病気のようにオープンに対処できるようになれば、検査なども受けやすくなると感じました。(神奈川県 20代 保健医療福祉関係)
- 国民性により予防活動・啓蒙活動も異なるものなのだなあと驚き、認識を新たにできました。ミュージカルタッチの動画は印象的でした。(神奈川県 50代 会社員)

連絡先：横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422

E-mail:info@yaaic.gr.jp

URL:http://www.yaaic.gr.jp/



現役男優に聞く、性感染症と幸せなセックス

主催：性感染症予防を考えるAV男優の有志たち

仕事柄性感染症の恐さを熟知し、それを予防するために日々学んでいるAV男優がその知識を社会に発信しようと自主的に集まった団体



内容：

- ・男優の仕事について ほとんどがプロダクションに所属せず個人事業であること、マネジメントも自分でやっている。
- ・性感染症と男優 上記により性感染症にかかったときのリスクが高いこと。そうならないためにこまめな検査や知識で身を守っている。
- ・コンドームのつけるタイミングやコンドームの種類、また実際に模型(ディルド)を使って正しい付け方を講義。
- ・幸せなセックスとは？ AVでのセックスはあくまでファンタジーであり、実際には撮影現場でも、プライベートでもコンドームを使うのは当たり前であること、また参加男優それぞれのセックス観についてシェア。

来場者感想：

- 貴重な生の現場のお話をありがとうございました。昨年もお話を伺いましたが、今年も新たなお話があり、とても勉強になりました。(東京都 20代 NPO/NGO)
- AV男優に対するイメージが変わった。一人一人がしっかり考えている人なのだと感じた。(東京都 30代 保健医療福祉関係)
- 普段聞けない話が聞けて勉強になりました。今後お付き合いする人ができたら、こういった知識を活かしていきたいと思います。(埼玉県 30代 保健医療福祉関係)

連絡先：性感染症予防を考えるAV男優の有志たち（代表者 株式会社YOSHIMURA）

〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-6サガミビル2F

TEL:03-3545-1765 FAX:03-3545-1764 URL:<http://yoshimura-taku.com/>

HIV陽性者の高齢期問題を考える

主催：NPO法人パープル・ハンズ

性的マイノリティの高齢期も支え合う、学びの場とネットワーク作りを目指すNPOです。

内容：医療の進歩で長期生存が可能となったHIV陽性者。その一方「長生きできるようになったがゆえの困難」も、これから顕在化します。MSMなど通常の家系をもたない人の老後をどう支えるか、またHIV関連認知症(HAND)の問題も言われるなか、本人をサポートするキーパーソンとなりうる制度の一つが成年後見です。

このセミナーでは、性的マイノリティと高齢期の困難を紹介し、さらにHIV陽性者の高齢者が直面を強いられている課題を3つにわけて考えました。また、孤立し、家族(親族)とも疎遠、認知症なども抱えている状況を支えるツールとしての成年後見制度について、基礎的な知識と、これをゲイやHIV陽性者サポートの現場で活用した場合、どのようなことができるかのシミュレーションストーリーを紹介しました。多少、専門的な内容もふくむ講座でしたが、医師やカウンセラー、同業者など、聞き手にも専門職が多く、質問もよく手が上がり、実り多い講座が行なえました。

介護現場や拠点病院からの参加者もあり、「HIV陽性者の生きづらさ、難しさは現場で感じていたので、パープル・ハンズのような団体を知れてよかった」とアンケートに書いてくださったかたもいました。また、性的マイノリティ当事者と思われるかたが、自身の老後の支えとして成年後見や見守り法人について知った感想を述べていたのも、印象的でした。通常の家系をもたない人をどう支えていくか、これからも考えていきたいと思っています。

来場者感想：

- 医療から介護の場へと職場が変わりました。今後の介護を考える時、今回のフォーラムや本テーマは避けて通れないことと再認識いたしました。多様な状況に対し、差別や偏見なく対応できる介護現場作りに活かしたいと思います。(神奈川県 50代 保健医療福祉関係)

連絡先：NPO法人パープル・ハンズ

〒164-0003 東京都中野区東中野1-57-2柴沼ビル41号 TEL:03-6279-3094

Twitter:@PurpleHands_net URL:<http://purple-hands.net/>



HIV感染者の洪久雄が帰ってきた～感染18年の振り返りとこれから～

主催：洪久雄 & 古川潤哉

内容：HIVポジティブの洪(ほん)久夫の半生と今、これからの、浄土真宗僧侶古川潤哉と会場とで聴いていく。各自のライフライン図をつくり、振り返りとこれからの通して今を見つめる。今年は生活保護の制度に翻弄された洪の話から。少人数開催でアットホーム。

来場者感想：

- 何度かこの講座を聴いておりましたが、新しいネタが洪さんからどんどん出てくるのが興味深いです。古川さんとのやりとりが漫才みたいで毎度楽しみにしております。(東京都 30代 NPO/NGO)
- 洪さん、古川さん、お二人の掛け合いが面白かったです。なかなかHIV陽性者の方のお話は聞く機会がないので勉強になりました。(山梨県 20代 学生)
- 面白くて何時間も聴いていたい。檀家になりたい。(東京都 50代 医療福祉関係)
- 楽しい、嬉しいだけの人生じゃない。辛い、悲しいがあってもいい、乗り越えられなくてもいいじゃないか！…に癒される。(埼玉県 30代 NPO/NGO関係)
- HIV陽性者の話を聴く機会はあまりなく、もっとHIVの話も聴きたかった。ライフライン、自分のを描くのも、お二人のを見るのも楽しかった。(山梨県 20代 学生)
- 一生懸命話す姿が印象的(山梨県 40代 教育関係)



連絡先：

洪久夫 <http://www.k4.dion.ne.jp/~hisa1973/>

古川潤哉 <http://furujun.info>

HIV/AIDS すきまミニ講座①～③

By AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員 山田雅子

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：今年で5年目となりました。来場者の方の声にいつも勇気づけられ、今年も3つの講座を実施いたしました。今年はフォーラムのテーマに沿うように、3つの講座を通して「ともに生きる」を考えられる内容にしてみました。

8/7(金) HIV/AIDSって何？ ～感染症(微生物)とともに生きる～

私たちの身の回りの様々な感染症。HIVをそのひとつと考えるとどうやってつき合えばいいのかのヒントが！？

8/8(土) 私たちがともに生きるための、知って納得！コンドーム！！

コンドームが工場で作られてから私たちのところに来るまでを紙芝居でご紹介。実際の使い方とポイントの説明も。

8/9(日) 看護師として伝えたいこと ～様々な病気とともにそしていろいろな人とともに生きる～

足を痛めて思うように歩けなくなった私が、街中で、電車で、出会った人から教えてもらった大切なこととは！？人を思いやることは想像力をはたらかせること…ともに生きることは互いに少しずつ優しい気持ちで相手のことを考えること。自分の行動の先にあることを想像できることでは？とお話させて頂きました。

来場者感想：

- 基本的な知識についてわかりやすかったです。(栃木県 40代 保健医療福祉関係)
- (コンドーム) 作り方や質の話など今まで知らなかったことが知れました。(神奈川県 20代 教育関係)
- 周りの人へのおもいやりをもって接することができるように想像力を身につけたいと思います。(神奈川県 40代 保健医療福祉関係)

連絡先：早稲田速記医療福祉専門学校 看護科

〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17

TEL: 03-3200-8080

E-mail: yamada@kawaguchi-g.ac.jp



展示プログラム

広がるAIDS文化フォーラムパネル展

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：【広がる活動・広がるネットワーク】

1994年に横浜で生まれたAIDS文化フォーラムという活動が京都、陸前高田、佐賀へと広がりました。それぞれのフォーラムは独立した存在で異なる特長を持っています。「AIDS文化フォーラム」というネットワークでゆるやかに連携しつつも、相互に良い影響を与えています。各地の様子をパネル展で報告するとともに、予告チラシや報告書などを配布し活動をPRしました。



広がる活動・広がるネットワーク

★ AIDS文化フォーラム in 京都 2015 10/3(土) - 4(日)
 URL : <http://hiv-kyoto.com/>
 E-mail : information@hiv-kyoto.com

★ AIDS文化フォーラム in 陸前高田 2015 11/22(日)

来年の予定

★ AIDS文化フォーラム in 佐賀
 2016 6月開催予定
 URL : <http://abfs.red/>

★ AIDS文化フォーラム in 横浜
 2016 8/5(金) - 7(日)
 URL : <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

全ての会場
入場無料



■34日 健康文化都市 陸前高田市
健康のつどい
 集まって かねて つながって ~みんなで輝く陸前高田~

健康シンポジウム
 おらの健康・
 おららの医療・
 これからの陸前高田

AIDS文化フォーラム
 in 陸前高田入
 とちに出きる一歩もが性あやまひをせにー

2015-11/22日 9:30-15:00
 会場：陸前高田市コミュニティホール

AIDS Bunka Forum in Saga

第1回 AIDS文化フォーラムin佐賀
 2015年 2月21日(土) 22日(日)
 佐賀大学本庄キャンパス(佐賀市本庄1)
 教養教育1号館(全学教育棟)1階・2階

<http://abfs.red>

主催：佐賀大学
 共催：佐賀県
 後援：佐賀県教育委員会

■22日
AIDS文化フォーラム
 in YOKOHAMA
 今こそ、ともに生きる!

2015 8/7(金) → 9(日)

12:00-17:00
 会場：横浜みなとみらいセンター
 市民会館ホール

AIDS文化フォーラム
 in 京都 10/3(土) - 4(日)

同志社大学

「OH, WHAT LOVE」
 9/29(日) 18:00-21:00
 会場：京都府立府民ホールアルティ

エイズを知ろう
 エイズで学ぼう

「この部屋行く、
 覗きたい恋が
 きっとみつかる」

アジアの女性と子どもネットワーク

タイの山岳民族の子どもたち、ストリートチルドレン、AIDS孤児等を支援。

内容:1階の展示会場にてタイの山岳民族の抱える課題と子どもたちの様子、AIDS孤児の現状などをパネルで展示し、山岳民族の人々やAIDS孤児、ストリートチルドレンの手作りの品を紹介、販売しレッドリボンのピンを無料配布した。

支援しているチェンマイのAIDS孤児施設の母子感染の子どもたちが、徹底した衛生管理、栄養管理、投薬のもとに元気に成長しており、中には今年の夏に日本に留学する子どももいるというような状況になっている反面、ストリートチルドレンの中には麻薬や売買春でHIV感染する子どももいるというタイの現状について多くの来場者に伝えることが出来た。

これらの現状は5月の末にタイを訪問して見てきたばかりの話なので、熱心に聞いてくださる来場者が多かった。特にタイではHIVの予防に関してかなり力を入れているにも関わらずストリートチルドレンなどにはそれが徹底されていないことなどについては関心を持ってくださる方が多かった。

連絡先:AWC・アジアの女性と子どもネットワーク
〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町3-39
尾上町ビル9F YAAIC内
TEL&FAX:045-650-5430
(月・水・木・金、13:00~17:00)
E-mail:awc@h6.dion.ne.jp
URL:http://www.awcnetwork.org/



カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容: HIV/AIDSデスクが発行した啓発ポスターや、デスクのサポーターが書いた色紙「自分より大切な人のためのエイズ検査」を掲示したり、小冊子やミニカードを配布したり、私たちの取り組みを紹介しました。レッドリボンと十字架を組み合わせたオリジナルデザインのロゴが付いている啓発グッズ(トートバッグ、キーホルダー、ビーズのバッジ)も並べて手に取っていただきました。

ワークショップコーナーでは、<マイ・レッドリボン・グッズを作ろう>と題して、赤いロープでリボンを作り、好きな部品に取り付けて、ストラップやキーホルダーを完成する今年の新企画を実施しました。

昨年好評だった、トートバッグにスタンプを押す企画には、小学生から大人まで参加してくれました。一面にスタンプを押して、まるで森の中にレッドリボンが浮かんでいるようなバッグを作ってくれた小1の男子もいました。

日本ではあまり見かけない、性別のある人形、カトちゃん&リクちゃんは、幼児から年配の方まで幅広い年代の方に、性別当てクイズをして、理解してもらいました。

今年も来場者の皆さんや他の展示団体の方々と、情報交換したり、共通の思いを分かち合ったり、有意義な時を持つ事ができました。

連絡先:カトリック中央協議会 社会福音化推進部
HIV/AIDSデスク

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10日本カトリック会館
TEL:03-5632-4413 FAX:03-5632-7920
E-mail:hivaid@cbcj.catholic.jp
URL:http://www.cath-aids-desk.jp
Facebook: http://www.facebook.com/hivaiddesk.cbcj/



神奈川県ユニセフ協会

ユニセフ(国連児童基金)の広報啓発・学習支援・募金等を推進。(公財)日本ユニセフ協会の協定地域組織。

内容:HIV/AIDSが子どもたちにもたらす問題(感染している子どもの治療、母子感染の予防、孤児への支援など)、若者への予防教育、検査の推進など、ユニセフのHIV/AIDSに対する取り組みを紹介する写真パネルと、スライドショーを上映しました。展示内容に関連するクイズを用意して来場者に呼びかけたところ、3日間で約100名の方がクイズに参加されました。ほかに、「ユニセフ支援ギフト」(支援物資を指定してご寄付いただくしくみ)のひとつ、HIV/AIDS簡易診断キットをご案内しました。現物をご用意できず写真のみのご紹介になりましたが、多くの来場者の方に関心をお寄せいただきました。

また、夏休み期間で「ボランティア体験」の高校生もブース運営に参加しました。HIV/AIDSについて事前学習をしたうえで会場に立ちましたが、他の出展団体の展示物、担当者の方のお話は彼女たちにとって発見や学習につながるものがあったようです。



連絡先: 神奈川県ユニセフ協会
〒231-0058 横浜市中区弥生町2-15-1
ストークタワー大通り公園Ⅲ305A
TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951
E-mail:info@unicef-kanagawa.jp
URL:http://www.unicef-kanagawa.jp

認定NPO法人エンパワメントかながわ

暴力のない社会の実現をめざし、一人ひとりがとって大切であることを伝える人権啓発活動を行っています。

内容:エンパワメントかながわは、2004年に設立以降、毎年AIDS文化フォーラムに参加させていただき、今年で12回目になります。その間に生まれたたくさんのプログラムや啓発グッズをご紹介しました。

CAP(子どもへの暴力防止)プログラム⇒昨年から「1万人の子どもにCAPを届けるキャンペーン」を始めました。寄付によってCAPを届ける仕組みづくりへの挑戦です。神奈川県内の小学校なら学校負担なしでCAPを実施できます。

すきっぷ(子どもの護身法)プログラム⇒神奈川県内に配付しているポスターを展示。公開講座のご案内もしました。

デートDV予防プログラム⇒今年も新しいキャラクターが生まれました。神奈川県内の全中学2年生に配付することになったデートDV啓発冊子「びいまいせるふ」には、アリのキャラクター「ありい」が「ありのままでもいいんだよ」と伝えます。

高校生向けプログラムに使用するキャラクターは、シロイルカの「でこっち」。「自分で自分を大切にしているなって思える時はどんな時?」と問いかけます。詳しくは、エンパワメントかながわHPでご案内しています。

連絡先: 認定NPO法人エンパワメントかながわ
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22
日興パレス横浜701号
TEL:045-323-1818 FAX:045-323-1819
E-mail:kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp
URL:http://npo-ek.org/



メイド・イン・アース

生地、縫製糸、ネームタグまですべて100%オーガニックコットンにこだわった製品の製造・販売をしています。

内容:布ナプキンとは—? やわらかな布に経血を吸収させ、それを洗って繰り返し使うものです。ゴミにならないので環境負荷が少なく、なおかつ肌に触れる部分がいつもの下着と一緒なので、肌への負担がありません。自然派の女性から広まり始め、今では生理トラブルに悩む人が手に取ることも多くなっています。

女性にとって生理期間は、自分の身体と向き合うとても大切な時間です。そんな時、からだに、自然に、そっと寄り添える布ナプキンというものがあることを、そしてその心地よさを、一人でも多くの女性に知ってほしい。その思いを胸に、

メイド・イン・アースでは、肌に触れる布、吸収体、縫い糸まですべてオーガニックコットン100%にこだわり、一つ一つ丁寧に布ナプキンを作っています。

ブースでは、そんな布ナプキンの使い方や洗い方・メリットをパネル展示したほか、さわられる実物サンプルの展示、販売を行いました。(販売は7日のみ)

今回が初めての出展となりましたが、みなさん興味をもってお話を聞いてくださり、「布ナプキン、気にはなっていたけど、詳しく話を聞ける機会が今までなかった。今日しっかり話が聞けてよかった」といったお声もいただきました。



連絡先:メイド・イン・アース

152-0035 東京都目黒区自由が丘1-19-30

TEL:03-5701-6633 FAX:03-5701-6635

URL:<http://www.made-in-earth.co.jp/about/nunonapkin>

横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが受託し運営しています。

内容:最近のHIV・エイズに関連する新聞記事展示

センターでは新聞などの記事を定期的に収集し、閲覧用に保管しています。それらのうち、直近1年以内の国内外の記事を集め展示しました。展示場所が入口正面であったため、多くの方に読んでいただくことができました。海外の記事などは来場者にとっても珍しいようで、内容に関する質問やお問い合わせを複数いただきました。

・パンフレットやコンドームなどの配布

予防啓発のパンフレットの他、コンドーム(オカモト株式会社提供)を予防啓発メッセージと共に配布しました。

・書籍の紹介

センターが所蔵するエイズや性教育に関する書籍を紹介しました。

・センターのマスコットキャラクター「コムちゃん」登場

大人気の「コムちゃん」が講座の間の休憩時間に展示会場に出没し、会場を盛り上げました。



連絡先:横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422

E-mail:info@yaaic.gr.jp

URL:<http://www.yaaic.gr.jp/>

横浜YMCA

世界119の国と地域に広がるYMCAは共通のミッションに基づき、「平和」で「差別」や「貧困」のない世界を目指しています。横浜YMCAでは特にアジアのYMCAと協力プロジェクトを行っています。

内容:1994年より、タイ・バンコクYMCAと協働し「プロテクト・ア・チャイルド」プロジェクトを行っています。バンコク近郊ナコンパトム県にあるHIV/AIDS孤児ケアセンター「ハッピーホーム」、人身売買予防シェルター「パヤオセンター」では子どもや女性の自立のために教育支援や、職業訓練、ライフスキルトレーニングを行っています。その中で、人権、人身売買、HIV/AIDSの予防啓発活動も行っています。今回はパヤオセンターで作製されているフェアトレード商品「パヤオクラフト」の販売と活動紹介を行いました。

2015年3月に現地を訪問した高校生2人、大学生2人がブースに立ち、自分たちが現地で感じたこと、学んだことを紹介しました。来場者の方へ「パヤオクラフト」を通して、HIV/AIDSや人身売買の問題を知っていただくことができました。

連絡先: 公益財団法人横浜YMCA

総主事室 国際・地域事業

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

E-mail:kokusai@yokohamaymca.org

URL: <http://www.yokohamaymca.org/>



NPO法人HIVと人権・情報センター

1988年に大阪で設立された全国規模の団体です。感染経路やセクシュアリティを区別せず、等しく支援しています。社会的偏見の克服と共生を目標に掲げ、HIV/AIDSの総合的な問題解決に取り組んでいます。

内容:装飾を施したパネルで団体の活動内容を紹介しながら、ピンバッジやポストカードなど啓発グッズの展示を行いました。毎年恒例の「HIVクイズ」は今年も実施し、多くの方々とHIV/AIDSについてお話をさせていただきました。

「HIVクイズ」は8問。それぞれの設問に対して「正しい」「正しくない」のどちらかに○をつけて解答していただく方式です。AIDS発症を食い止める治療法があることは多くの方が既にご存知でしたが、近年では1日1回1錠服用するタイプの治療薬が登場したことについて関心を寄せる方が多かった印象です。設問をきっかけにしてHIV/AIDSを改めて考えていただく場としてご利用いただけたと思います。



連絡先: NPO法人 HIVと人権・情報センター

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-2 吉田ビル2F

TEL:03-5259-0622 FAX:03-5259-0643 E-mail:info@npo-jhc.com URL:<http://www.npo-jhc.com>

NPO法人ピルコン

NPO法人ピルコンは、正しい性の知識と判断力を育む支援により、これからの世代が自分らしく生き、豊かな人間関係を築ける社会の実現を目指す非営利団体です。

内容: AIDS文化フォーラム in 横浜にNPO法人ピルコンは今回、初めての出展をさせていただきました。今回は、ピルコンの活動をより多くの方に知っていただくことや参加者の方との交流を目的とし3日間活動させていただきました。

展示では、ピルコンの活動紹介や書籍、グッズ販売等や、LOVE Q&A TALK と題し若者の恋愛の悩みや相談事を参加者やメンバーにこたえていただく、参加型の展示を行いました。お越しいただいた方々の中には以前からピルコンをブログなどから知り、見に来られる方がいたり、ピルコンの活動を知り、興味を持って下さる方がいる事に喜びを感じるひと時がありました。また、愛の格言を綴った吹き出しボードを参加者や他団体の方々と持ち写真撮影を行うことで話題にもなり、交流の輪を持つきっかけにもなりました。

そして、性やHIV/AIDS について、様々な団体が関わり、関心を寄せており、同じテーマを多面的に捉える事で更なる深い学びにも繋がりました。そのような団体を越えた人々とHIV/AIDSや性についてなんの隔たりもなく語らう事のできる場を大切に、今後も活動を広げていきたいと思っております。

連絡先: NPO法人ピルコン

〒191-0041 東京都日野市南平7-24-82

TEL:090-5179-3449

E-mail:pilcon.info@gmail.com

URL:http://pilcon.org/



PLANET (HIVとともに生きる会)

内容: PLANETの中心活動であるエイズキャンドルパレードのPCでの上映を行った。上映は第20周年のものであるが、パレードの参加者の様子や河原町や四条通りの店舗に飾られているレッドリボンの様子など実写で見ていただけた。毎年、18:30からの開会式でのスピーチの内容も流れていてこのパレードへの想いが伝わる内容でもある。ただ、足を止めてこの映像をじっくり見ていただけた方は少数ではあったものの、いつか参加したいとの声があった。

他に展示内容として、このパレードを写真家の方の協力で、A4サイズの写真にしたものを掲示した。特に店頭飾られた大きなレッドリボンはそれぞれに表情を持っていて、写真ならではの記録になっている。このほか20周年の冊子も設置しました。足を止めて写真や映像を見てくださる方の中で新たな繋がりもあった。



高野町西側、パレードが始まります



街灯や灯火に照らして



それぞれの思いを胸に歩きます



街灯照らす夜の街へ



笑顔もこぼれます



『ともに生きよう』のメッセージ

連絡先: 小田切孝子

〒612-8066 京都市伏見区桃山町伊賀6-5

TEL/FAX:075-622-6889 E-mail: o-takasan@zpost.plala.or.jp http://www7b.biglobe.ne.jp/~hunky/

ATAC&ABCD&SKGH in NARA

(田村猛夏・畠山雅行・後藤千寿子・真鍋美江)

ATAC(ANTI TUBERCULOUSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために、ABCD(ANTI BREAST CANCER DISCUSSION CONFERENCE)は、乳がんの予防と早期発見と治療について理解を広める活動を行います。

内容:

- ①エイズ・結核の予防と乳がんの早期発見と治療を学習。
- ②禁煙とリンパマッサージで免疫力アップ③アンケートによる第三者評価実施
- ④乳房乳がんモデル」の実際の触知・触診により乳癌自己検診の啓発

◇アンケートの結果: 総計104名回収。(男13名:女91名)

結核アンケート結果: 全9問。平均正解率: 70.8%(昨年度は82%)。エイズアンケート結果: 全9問。平均正解率77.7%(昨年度は83%)。結核では「2011年度の

死亡者は約2000人です」「感染した人の約10人に1人が発病しやすい」「患者の使用した食器類はいつもの洗浄でよい」。エイズでは「STDに感染しているとHIV感染の確率が高まる」「HIV感染者は結核に感染しやすい」などは正解率が低かった。「低用量ピルはHIV感染の予防にはならない」「肺結核は、胸部X線検査と痰の検査で発病を知る」と「保健所でHIVの抗体検査は無料・名前を言わないで受けることができる」は正解率が高かった。

◇アンケートの評価: エイズアンケートの正解率は結核アンケートよりも高くエイズに関する理解度の高い事がわかります。一方、両アンケートの正解率は低下しており、今後も経年的に正しい知識を伝える必要性があると考えられました。「乳房乳がんモデル」等を利用しての乳癌自己検診の普及啓発も重要と考えられます。参加者の理解や社会の関心を高めるために、AIDS文化フォーラムに今後も参加いたします。



連絡先: 畠山雅行 FAX:0743-78-9841 E-mail:m-hatake@m4.kcn.ne.jp

手作りワークショップコーナー「マイレッドリボンをつくろう！」

主催: AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

協力: カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク、横浜AIDS市民活動センター

内容: 来場者にオリジナルのレッドリボングッズを作ってもらうコーナーを設けました。定番のレッドリボンデコレーション、レッドリボンネイル、ステンシルなどの他、新たにレッドリボン付くるみボタンが加わりました！手芸に慣れていなくても簡単に作れるキットを使用しているので、来場者の皆様には気軽に楽しんでいただけたと思います。同様の取り組みを「実施したい！」とのお問い合わせなどもいただいています。具体的な方法をお知りになりたい場合はAIDS文化フォーラム in 横浜事務局、または、協力団体までお気軽にお問い合わせください。

連絡先: AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会



交流スペース

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：AIDS文化フォーラム in 横浜の参加者が自由に交流できるスペースを設けました。参加者同士が休憩しながらおしゃべりしたり、展示場で得た情報や資料を整理したりする場所となりました。また、新企画「AIDS文化フォーラムおみくじ」を設置し、来場者に楽しんでいただきました。



全体会・閉会式

次のステップ、AIDS文化フォーラム

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

進行：山田雅子（運営委員）

内容：昨年に引き続き会場で皆様からお寄せ頂いたメッセージを紹介しながら、3日間のプログラムを振り返ってみました。発表した人、展示した人、参加した人・・・様々な視点からそれぞれに「ともに生きる」という今回のテーマに込められた思いをかみしめ、また新たな一歩を踏み出す力を分かち合えた時間となりました。

来場者感想：

- 初めての参加でしたが、また参加したいと思えるフォーラムでした。(宮崎県 30代 保健医療福祉)
- とても有意義な内容で、自分にできることを考える機会になりました。(東京都 20代 その他)
- スタッフのみなさんお疲れさまでした！来年も参加させていただきますのでがんばって下さい！！(神奈川県 40代 教育関係)
- 疾患—文化—社会をつなぐ素晴らしいフォーラムだと思いました。(東京都 20代 保健医療福祉関係)
- 来場者としてここで学んだこと、感じたことを大切な人と共有したいと思います。来年も楽しみにしています。(埼玉県 20代 その他)
- このようなフォーラムが日本全国に広がればよいと思いました。(東京都 20代 学生)



交流プログラム

ネットワーキングTEAパーティー

当日は飲み物をご用意し、夕暮れに集まった方々と静かにテーブルを囲みました。司会はなんと劇団プレイバックズ副代表の佐藤さん。毎年フォーラムにも参加いただいているワークショップのエキスパートです。

「相手がどんな活動をしていて、なぜAIDS文化フォーラムに参加しているのか？」お互いを知ることから、経験を分かち合う場所へと時間が流れます。これまでのフォーラムで出会った素敵な人、印象的だったこと、今後やりたい未来の話。参加者は、この時間を明日のエネルギーに変え、豊かな笑顔を携え会場を後にしていました。分かち合いの時間は、ともに生きる実感を教えてくれたように思います。ご参加いただいた参加者のみなさん、司会を務めていただいた佐藤さん、ありがとうございました。来年もお待ちしていますね！こころより感謝をこめて



ネットワーキングパーティー

中華料理を食べながらのパーティーです。毎年、このパーティーから新たなアイデアやネットワークが誕生します。



イベントボランティア

会場の設営・受付・アンケート配布などは、中学生から社会人までの幅広い世代のボランティアによって支えられています。初めてボランティアをする方から、10年以上継続して下さっている方までのご協力により、スムーズな会場運営が実現します。また、ボランティアの皆さんには、会場で知った知識や情報、そしてご自身が感じたことを、フォーラム終了後に周りの方へ伝える役割も担って下さることを期待しています。

イベントボランティアの感想：

- とにかく”初”なことが多く、とてもよい経験になりました。楽しかったです。また来年もぜひ参加したいです。(10代 高校生)
- 福祉やAIDSに関していろいろと学べたので、1日中ワクワクしていました。(10代 大学生)
- とても貴重な体験ができて嬉しかったです。自分の価値観が変わりました。こういう風に自分の考えを深める体験はとても大切だと思います。(20代)
- はじめてのボランティアでしたが、楽しく、そして勉強になり、参加してよかったと思っています。(40代)



開会式でのボランティア代表挨拶



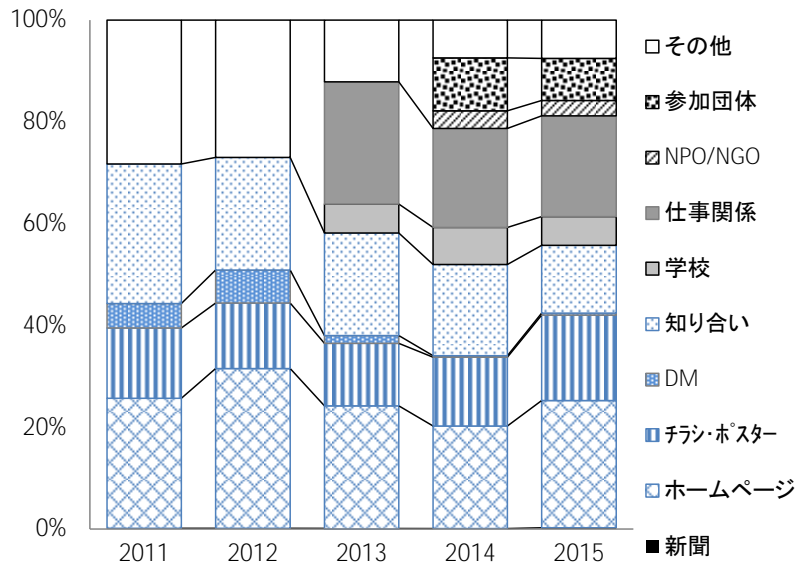
ボランティアオリエンテーション

フォーラム全体集計表

◆全体集計推移 (2010~2015)

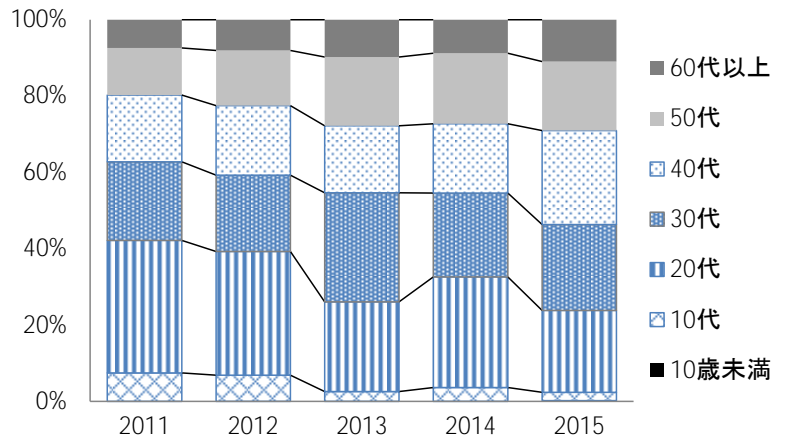
1. 何で知ったか(複数回答)

	2011	2012	2013	2014	2015
新聞	1	1		1	3
ホームページ	180	227	221	228	289
チラシ・ポスター	97	93	112	153	194
DM	34	47	14	3	5
知り合い	193	160	184	203	154
学校			52	82	65
仕事関係			219	220	229
NPO/NGO				39	35
参加団体				118	96
その他	199	195	111	84	87
無記入	35		24		
計	739	723	937	1132	1157



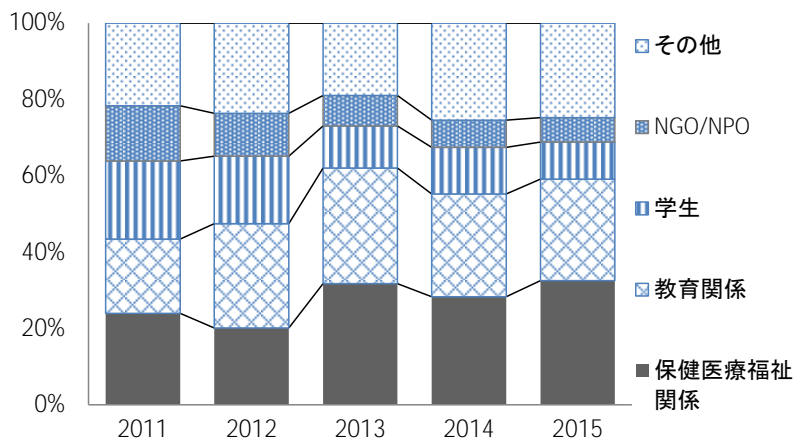
2. 年齢

	2011	2012	2013	2014	2015
10歳未満					2
10代	48	49	20	32	20
20代	222	231	183	254	197
30代	132	142	222	193	206
40代	112	130	136	159	226
50代	79	103	140	162	166
60代以上	47	57	76	77	100
無記入	19			14	10
計	659	712	777	891	927



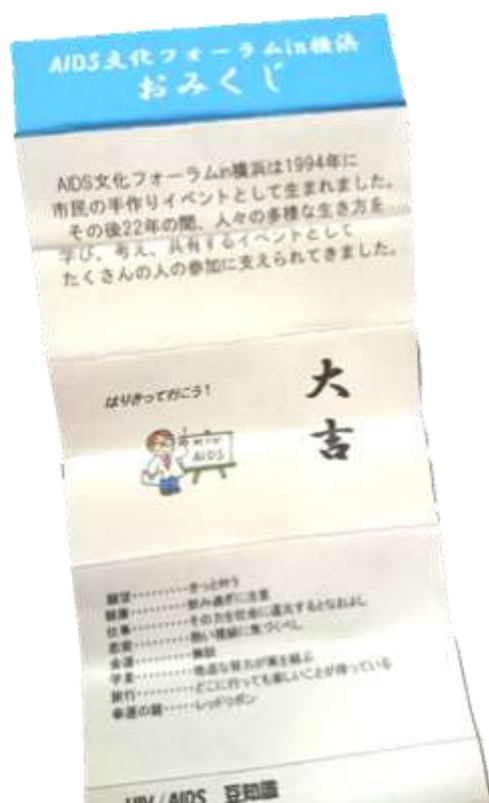
3. 職業等

	2011	2012	2013	2014	2015
保健医療福祉関係	143	124	242	246	296
教育関係	116	168	231	233	242
学生	122	109	84	106	88
NGO/NPO	86	69	61	62	58
その他	129	145	144	220	225
無記入	63		27	24	18
計	659	615	789	891	927



◆2015年参加者の居住地（都道府県別）

地域	都 道 府 県								小計
	北海道	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島		
北海道・東北			4						4
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川		746
	7	9	24	32	35	186	453		
中部1	新潟	富山	石川	福井	山梨				23
	4	1			18				
中部2	長野	岐阜	愛知	静岡					34
	7	5	11	11					
近畿	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山		52
	9		16	6	16	5			
中国	鳥取	島根	岡山	広島	山口				5
				5					
四国	徳島	香川	愛媛	高知					0
九州・沖縄	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	15
	2					10		3	
無記入									48
合計									927



AIDS文化フォーラム in 横浜 22回の歩みー開催概要と経緯ー

AIDS文化フォーラム in 横浜は

「感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」

を特徴に22回歩み続けています。

組織委員会: HIV/AIDSに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会: HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画

事務局: 横浜YMCA ボランティア: 会場運営に市民ボランティアの公募ー中学生から70歳代までの幅広い参加ー

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
94	1	市民と海外NGOによるAIDS会議	58	40	国際交流協会 神奈川県	4,305	9日間	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民中心
95	2	ともに生きる	31	26		2,200		母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
96	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害/薬害和解	
97	4	未来へのつどい	72	56	かながわ県民センター	4,607	3日間	映画・秋桜 カクテル療法	全国から参加
98	5	エンパワーメント～自立と協働に向けて	76	50		5,694		TV・神様もう少しだけ 障害者認定	
99	6	いまを生きる	70	47		3,240		複数作家の写真展 ピル解禁・感染症予防法	
00	7	いま一人ひとりができること	64	49		3,801		女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用	医療・教育の専門職増加
01	8	いま一人ひとりができること	72	52		3,946		バリアについて考える ハンセン病に学ぶ	
02	9	つながるつながる	81	56		4,808		国際NGO・国際神戸会議 SARS	国際NGO等幅広く拡大
03	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4,624		10年の振り返り 国際エイズ会議の延期	
04	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み	83	66		6,031		若者の参加 国際エイズ・バンコク会議	
05	12	つながる空間	74	60		5,509		アジア太平洋地区エイズ・ 神戸会議	文化的側面からのアプローチ増加
06	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3,880		第20回日本エイズ学会 (池上千寿子会長)	
07	14	つながる	71	56		3,689		かながわレインボーセンター-SHIP が横浜西口OPEN	
08	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60		4,170		アフリカ会議横浜で開催	
09	16	他人ごと?!	55	54		3,547		新型インフルエンザ 政権交代	
10	17	他人ごと??	52	52		3,296		猛暑 円80円台	被災地でもつながりが
11	18	エイズの何を知っていますか? ～変わる常識～	64	44		3,255		東日本大震災 福島原発事故	
12	19	AIDS??文化?? ～仲間 新発見!～	69	53	3,184	横浜で 第26回日本エイズ学会	専門職の増加		
13	20	これまでの20年 これからの20年	70	56	4,278	20年の積み重ねが京都、 そして陸前高田につながる	参加者増で賑わう		
14	21	未来につなぐ新たな船出	69	56	4,165	21年目の新たな船出 佐賀に広がる	心機一転		
15	22	今こそ、ともに生きる	67	54	3,701	LGBTの権利拡大 渋谷区条例、文科省通知	交流拡大		

市民による市民に開かれた 手弁当フォーラム！

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始めました。



■第1回(1994年)：社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)～第3回(1996年)：「第1回での成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい」という全国のAIDSに関わるNGOや団体からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

新たな工夫と挑戦へ！～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年)：「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなり、ネットワークを組むために必要な課題と問題について議論するなど、感染者の方々の積極的な協力がありました。

■第5回(1998年)：HIV/AIDSの治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われはじめました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が一気に高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年)：1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

■第7回(2000年)：恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんとタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。



■第8回(2001年)：パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

■第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

10年の振り返りと新たな取り組み～若者へのアプローチ強化

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。



■第10回(2003年)：脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。

■第12回(2005年)：飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

つながることで「他人ごと意識」の解消へ

■第15回(2008年)：近年高まっている教育関係者のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズと紹介し、最終日には「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」を開催しエイズ教育に関わる来場者と本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年)：正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年)：パトリックさん、北山翔子さん、洪久夫さん、桜屋伝衛門さんをはじめ多くの当事者の皆さんに励まされ、妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんがトークセッションを持ってくださいました。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めてくれました。他人事意識を克服するため、多くの人が「つながる」ことで、一歩ずつ「他人ごと」が「自分ごと」に代わっていくことを実感させてくれるフォーラムでした。

つながる空間、

本音で語る対話の場へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年)：「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがPeer講座を担当するなど若者の活躍がみられました。

■第14回(2007年)：3名のHIV(+)の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

■第18回(2011年)：3月11日に東日本大震災があった中、オープニングでは陸前高田市の方々から被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていくことを実感したフォーラムとなりました。

■第19回(2012年)：昨年のAIDS文化フォーラム in 京都への広がり。11月に開催される日本エイズ学会(横浜)とのつながり。改めてHIV/AIDSを文化の視点で考えさせられました。


■第20回(2013年)：20回目を迎えた今年、横浜・京都・陸前高田でAIDS文化フォーラムが開催されることに。一区切りを迎える一方で、新たな時代への誓いをこころに刻み、この先も続けることをみんなで確認し合いました。

■第21回(2014年)：21年目に新たな船出となったAIDS文化フォーラムが佐賀に広がることに。継続する力は多くの人や地域からのサポートがあってこそ実感！

■第22回(2015年)：事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを考える時代になった。

協賛

ご協力に感謝申し上げます

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 〒160-0003 東京都新宿区本塩町7 日本YMCA同盟会館 TEL:03-5367-6652 URL: http://ys-east.jimdo.com/	ヴィーブヘルスケア株式会社 〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル TEL:03-5786-6043 FAX:03-5786-6044 URL: https://www.glaxosmithkline.co.jp/viiv/index.html
神奈川県化粧品工業協会 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター402 TEL:045-755-0323 FAX:045-755-2342	神奈川県製薬協会 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター402 TEL:045-755-0323 FAX:045-755-2342
ジェクス株式会社 〒540-0012 大阪府中央区谷町2-3-12 TEL:06-6942-9002 FAX:06-6941-5234 URL: http://www.jex-inc.co.jp	鳥居薬品株式会社 〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 TEL:03-3231-6811 FAX:03-5203-7335 URL: http://www.torii.co.jp/
MSD株式会社 〒東京都千代田区九段北1-13-12北の丸スクエア TEL:03-6272-1041 FAX:03-6238-9040 URL: http://www.msd.co.jp/	株式会社 伊藤園 〒245-0003 横浜市泉区岡津町2100 TEL:045-810-4811 FAX:045-810-4813
東京キリンビバレッジサービス株式会社 〒232-0064 横浜市南区別所1-9-24 TEL:045-741-0538 FAX:045-713-4265	
株式会社ジャパンビバレッジセントラル 〒221-0864 横浜市神奈川区菅田町2774-1 TEL:045-473-9540 FAX:045-473-9448 URL: http://www.jbinc.co.jp/	

協賛企業展示

ジェクス株式会社

内容:今年も参加させていただき有難うございます。コンドームの展示という事で、普段じっくり話せない内容をお伝え出来たと思いますが、ズラリ並んだコンドームのテーブルには恥ずかしさや抵抗感があるためか、チラ見スルーされる事が多かったです。

今回は特に教育される側の方もあまり知らない「天然ゴムとウレタンの違い」を説明させていただきました。市販されている0.01、0.02mmのうす型コンドームは、全て今までのゴムではなく、ポリウレタンが素材となっており、バリエーションはありません。素材やゼリーによる特長を理解して使用頂く事で、より悩みの解決や自分にあった選び方が出来ると思いますので、今後の参考にして頂ければと思います。

性教育といえば、カたい教育か、信頼できないエロ情報か・・・という現状を感じている中、このフォーラムは実に多方面からの実践的な情報を得られる場であり、是非もっと多くの一般の方に参加してほしいと思います。エイズだけでなく、性の文化フォーラムとして、日本の歴史に残るイベントだと思います。



連絡先:ジェクス(株) 開発マーケティング企画部
〒540-0012 大阪府中央区谷町2-3-12
TEL:06-6942-9002
FAX:06-6941-5234
E-mail:info@jex-inc.co.jp
URL:<http://www.jex-inc.co.jp>



2015 AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

■主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

- ◇公益財団法人横浜YMCA 田口 努 (組織委員長)
- ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 永野 肇
- ◇カトリック横浜教区 鈴木 真
- ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 今城 高之
- ◇公益財団法人横浜YWCA 今地裕美子

■共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課

芝山智、金子卓志、関野有貴子、山本理子、山本貴子、福田眞理



■助成金 公益財団法人エイズ予防財団

平成27年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、AIDS文化フォーラムの広がるネットワークに助成していただきました。

■後援

- ◇横浜市健康福祉局
- ◇川崎市
- ◇相模原市
- ◇横須賀市
- ◇藤沢市
- ◇横浜商工会議所
- ◇神奈川県教育委員会
- ◇公益財団法人エイズ予防財団



■企画運営 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、大学生、共催・後援(行政)の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通し活動しています。

伊東和子、猪谷亜子、岩室紳也、大江 浩、糟谷 潤、金井多恵、佐藤 睦、白井美穂、千代木ひかる、畠山雅行、彦根倫子、母袋秀典、三宅晶子、矢部尚美、山田雅子、吉永陽子、渡辺誠二

■イベントボランティア(会場ボランティア) (中学生～社会人)

石井良治、石川さき子、石川さゆみ、稲尾由梨、岩澤弥代生、岩本友美、大塚彩花、茅森美聖、岸田綾乃、木下里佳、國重遥希、栗田欣喜、小俣妙子、齋藤志津江、坂本佳奈子、菅沼賢人、鈴木康大、鈴木浩、棚網勇、地引奈津実、長澤勲、中村里砂、福間建太郎、藤田和恵、森本利穂、山本容慈

他合計55人 ありがとうございました!

■事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

22年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子、大塚英彦、松井友紀

「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。
(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催(運営委員会へ委嘱)の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

参加団体等名称・索引

◆名称順

赤崎正和(映画「ちづる」 監督)	・・・P14	水谷修	・・・P27
アジアの女性と子どもネットワーク	・・・P32	薬害エイズを考える山の手の会	・・・P22
荒木順子	・・・P19	山内哲也	・・・P6
一般社団法人日本心理療法協会	・・・P23	山田七重	・・・P16
岩室紳也	・・・P6,8,11,13,17	山田雅子	・・・P30,38
上田敦久	・・・P26	横浜市立大学附属病院	・・・P26
鶴藤有紀子	・・・P26	横浜AIDS市民活動センター	・・・P28,34,37
遠見才希子	・・・P25	横浜YMCA	・・・P15,35
カトリック中央協議会 HIV/AIDSデスク	・・・P32,37	横浜YMCA ACT	・・・P25
神奈川県健康危機管理課	・・・P19,26		
神奈川県ユニセフ協会	・・・P33	◆アルファベット団体名	
上村茂仁	・・・P22	AIDS文化フォーラム in 京都	・・・P31
唐澤美鈴	・・・P16	AIDS文化フォーラム in 佐賀	・・・P31
北山翔子	・・・P10,14	AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会	・・・P6,14,17,27,30,31,37,38,39
劇団プレイバックーズ	・・・P19	AIDS文化フォーラム in 陸前高田	・・・P31
公益財団法人東京都臨床検査技師会	・・・P27	ATAC&ABCD&SKGH in NARA	・・・P37
厚労科研エイズ対策研究事業研究分担	・・・P20	HAATAS	・・・P20
「HIV感染妊婦に関する国民への啓発と教育」班	・・・P9	JOINT&HEART	・・・P21
佐々木亮平	・・・P13,23	NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター	・・・P21
椎名雄一	・・・P44	NPO法人パープル・ハンズ	・・・P29
ジェクス株式会社	・・・P29	NPO法人ピルコン	・・・P28,36
性感染症予防を考えるAV男優の有志たち	・・・P8	NPO法人HIVと人権情報センター	・・・P35
性を語る会(北沢杏子)	・・・P17,18	PLANET(HIVとともに生きる会)	・・・P12,36
平良愛香	・・・P6	YMCA健康福祉専門学校	・・・P12
高久陽介	・・・P6		
田口努	・・・P26		
谷口桃代	・・・P26		
筑丸寛	・・・P19		
認定NPO法人akta	・・・P24,26		
認定NPO法人AIDSネットワーク横浜	・・・P18,33		
認定NPO法人エンパワメントかながわ	・・・P15		
ネットスター株式会社 宮崎豊久	・・・P23		
ノット・フォー・セール・ジャパン(NFSJ)	・・・P11,17,30		
古川潤哉	・・・P6		
星野慎二	・・・P16,24		
星野貴泰	・・・P30		
洪久夫	・・・P17		
松田清四朗	・・・P10		
松本俊彦	・・・P9,34		
メイド・イン・アース			



2015(第22回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日： 2015年11月20日
 発行者： AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 編集： AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
 イラスト協力： もたいひでのり
 連絡先： AIDS文化フォーラム in 横浜事務局
 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内
 TEL：045-662-3721
 FAX：045-651-0169
 URL: <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>
 E-mail: abf@yokohamaymca.org

次回予告

第23回AIDS文化フォーラムin横浜

期間：2016 8/5(金)～ 8/7(日)

会場：かながわ県民センター
(横浜駅西口徒歩5分)

入場無料

あなたも
参加しませんか？



○参加団体として！

HIV/AIDSに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加いただけます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表の形式は自由で、例年多くの団体が教育・若者・国際・PWA/H・医療といった多様な切り口から発表を行っています。毎年4月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。(※フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断り致します。)

○イベントボランティアとして！

イベントボランティアとして、フォーラムに参加しませんか？小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。募集はホームページやチラシ等でご案内しています。

詳細はホームページをご覧ください！

URL： <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

